

7. 水源地域動態

7.1 評価の進め方

7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は、大きく2つの観点から行った。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理開始以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理した。この結果に基づき、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等について評価した。

もう一つの観点として、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行った。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行った。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討した。

7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの観点により評価を行った。評価のフロー図を図7.1-1に示す。

(1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口・産業等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握した。

(2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の関わりを把握した。

また、真名川ダム周辺施設の利用状況・地域交流・各種イベントの内容・参加人数等を整理するとともに、これまでダムに訪れた人や地元住民から寄せられた意見・要望等から真名川ダムに対する意識を把握した。これらのとりまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握した。

(3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、地域におけるダムの位置づけについて考察を行った。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年を含むこれまでのダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価した。

(4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理した。また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行った。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めた。

(5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理した。

また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行った。

(6) まとめ

以上のとりまとめ結果から、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理した。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめた。

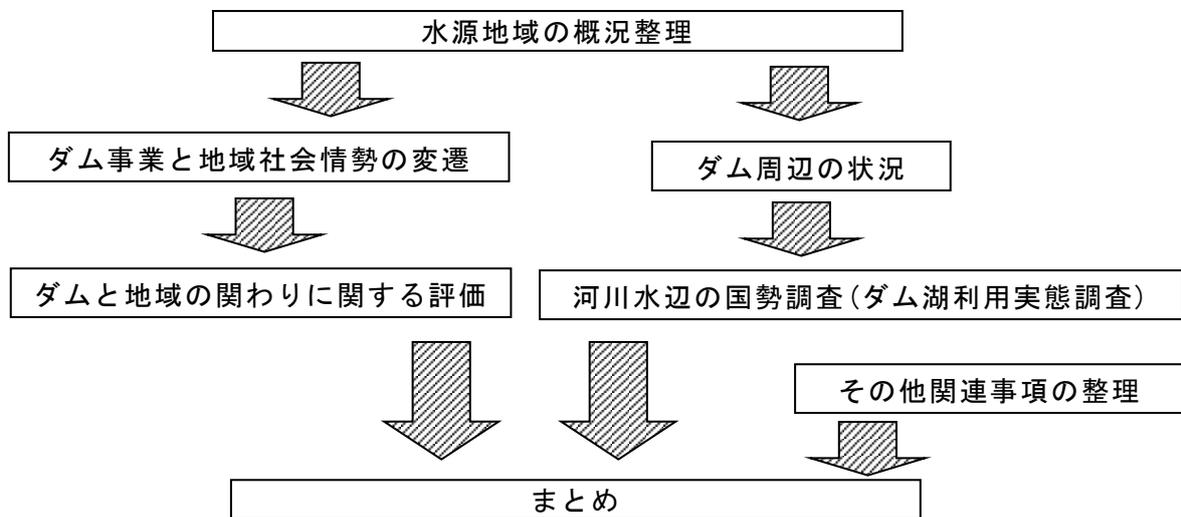


図 7.1-1 評価フロー

7.1.3 必要資料（参考資料）の収集・整理

ダム流域社会情勢や地域との関わり、周辺整備の状況等、評価に必要な資料について収集し、リストを作成する。収集した資料は、「7.8 文献リストの作成」において整理する。

7.2 水源地域の概況

7.2.1 水源地域の概要

(1) 水源地域の位置

九頭竜川流域は、福井県嶺北地方の7市4町(大野市、福井市、勝山市、あわら市、坂井市、越前市、鯖江市、越前町、南越前町、永平寺町、池田町)を中心に、岐阜県郡上市(石徹白地区)を含め2県の8市4町にまたがっている。

九頭竜川の流域では、古代からの人々の生活の跡が様々な地区で見られ、九頭竜川本川、日野川、足羽川の三大河川がもたらす恵み多い自然の中で、大和や京都の影響を受けながら地域の風土に根ざした文化を育み、歴史を刻んできた姿を数多い遺跡や古墳、文化財などから、当時の生活の様子を窺い知ることができる。

近代になってからは、福井平野を中心に武生盆地や大野盆地などで市街地が拡大し、流域西側に位置する福井市、鯖江市、越前市等において流域内の商工業・サービス業の中核を担ってきた。農業は肥沃な沖積平野が広がる福井平野や武生盆地を中心に流域東側に位置する山間部の市町一帯で展開されてきたが、近年は農業就業人口の減少などによって衰退傾向にある。また、少子化などにより、現在では九頭竜川流域の全体で人口の減少傾向が見られる。

大野市域の約87%を占める森林がもたらす「水」は、名水百選「御清水^{おしろうず}」に代表されるように、大野市の大きな魅力となっている。清らかで豊かな水は、農業や地域の食文化を育むとともに、地場産業の繊維工業の振興にも大きな役割を果たしてきた。一方、市街地は400年以上も前に大野城の城下町としてつくられ、碁盤の目の町割りが城下町の風情を色濃く残し、「北陸の小京都」とも呼ばれており、歴史と文化が豊かな空間となっている。今日まで脈々と受け継がれてきた幕末の大野藩に代表される進取の精神や、シンボルの亀山、越前大野城、寺町等は市民の誇りである。



図 7.2-1 水源地域の太野市概略位置図

【出典：国土地理院 地理院地図】

(2) 自然公園等

真名川ダム近傍の自然公園等の指定状況を下図に示す。

真名川ダム近傍は、奥越高原県立自然公園に指定されている。

奥越高原県立自然公園は、勝山市、大野市の2市にまたがり、白山山系の赤兎山、大長山、取立山、法恩寺山、大舟山などの1,500m前後の山々と「日本百名山」である荒島岳などを中心とする山岳公園である。

これらの山々を切り開くように入り込む九頭竜川とその支流の石徹白川、真名川などの渓谷・峡谷美、九頭竜湖や麻那姫湖などのダム湖とが調和のとれた自然環境を呈している。

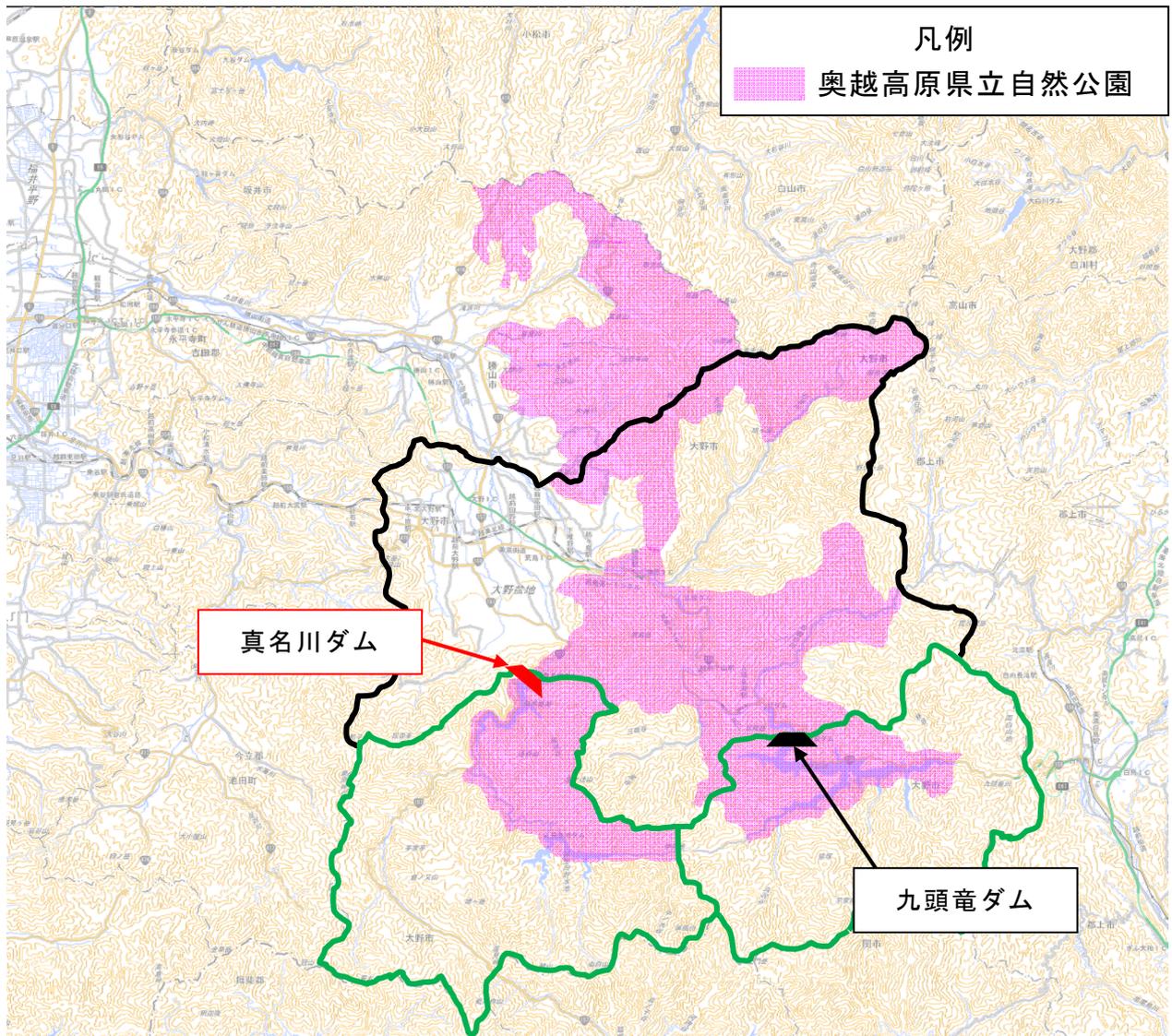


図 7.2-2 真名川ダム周辺の自然公園

【出典：福井県 HP
地理院地図】

(3) 水源地域の人口・世帯数の推移

真名川ダムの水源地域である大野市(旧大野市)の人口は減少傾向にある。

世帯数は、核家族化の影響等もあって平成 17 年まで増加していたが、それ以降は減少傾向に転じている。

表 7.2-1 大野市(旧大野市)の人口・世帯数の推移

旧大野市	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H5	H12	H17	H22	H27	R2
人口(人)	46,271	44,873	42,241	41,918	41,901	41,926	40,991	40,245	38,880	37,174	34,750	32,638	30,695
5年間の増減率	—	—	-5.9%	-0.8%	0.0%	0.1%	-2.2%	-1.8%	-3.4%	-4.4%	-6.5%	-6.1%	-6.0%
世帯数(世帯)	9,620	9,975	10,090	10,306	10,476	10,485	10,463	10,567	10,867	10,977	10,621	10,481	10,441

【出典：国勢調査 昭和 35 年～令和 2 年】

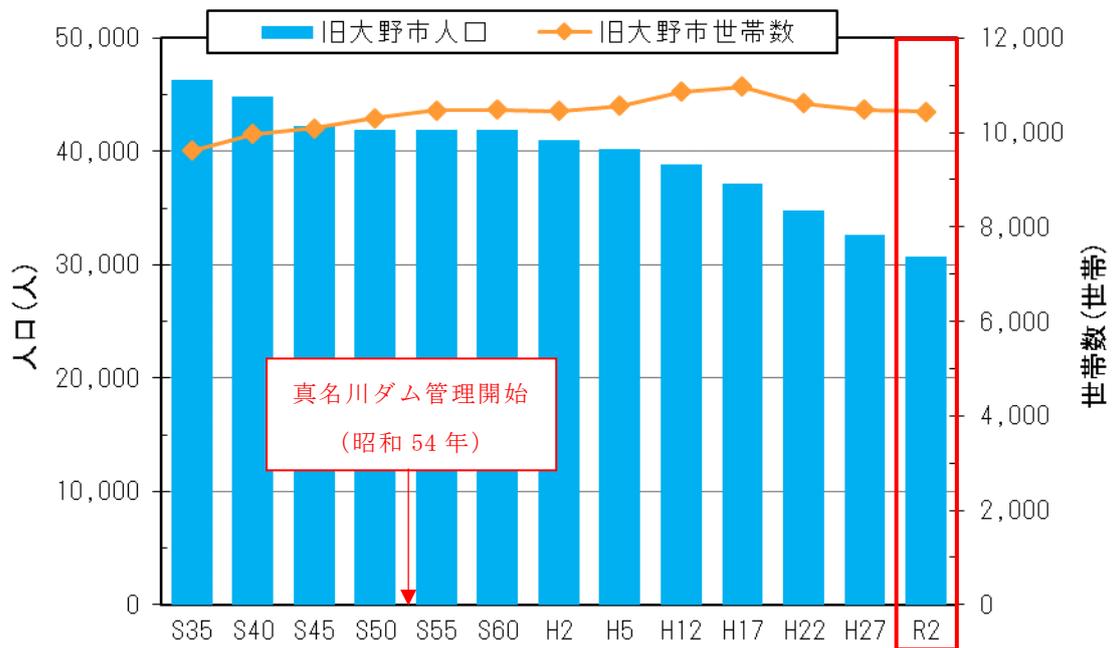


図 7.2-3 大野市(旧大野市域)の人口・世帯数 経年変化

【出典：国勢調査 昭和 35 年～令和 2 年】

(4) 産業別就業者人口

大野市(旧大野市域)における事業所数の経年変化を図 7.2-4、産業別就業者人口の経年変化を図 7.2-5 に示す。

大野市(旧大野市域)では、事業所数は昭和 56 年頃までは増加していたが、その後は新大野市に統合されるまで減少傾向にあったが、令和元年度にはやや増加した。この要因は、中部縦貫自動車道の開通や建設工事に伴う一時的な増加などが想定される。

産業別就業者数の割合の経年変化では、昭和 55(1980)年までは、就業者数は概ね横ばいであったが、その後は減少している。

産業別では、第一次産業就業者数は昭和 35(1960)年以降減少し続けている。

第二次産業の就業者数が昭和 50 年前後に増加しているが、これは真名川ダム建設工事の影響と考えられる。昭和 50 年から昭和 60 年まではほぼ横ばいであったが、平成 2 年以降は減少傾向にある。

昭和 55(1980)年以降は人口の推移と同様に就業者数も減少する傾向にある。過疎高齢化に伴う第一次産業就業者数の減少及び鉱業関連産業の衰退等で第二次産業就業者数が減少し、第三次産業の就業者割合が相対的に高くなり、平成 17(2005)年からは 5 割を超えている。

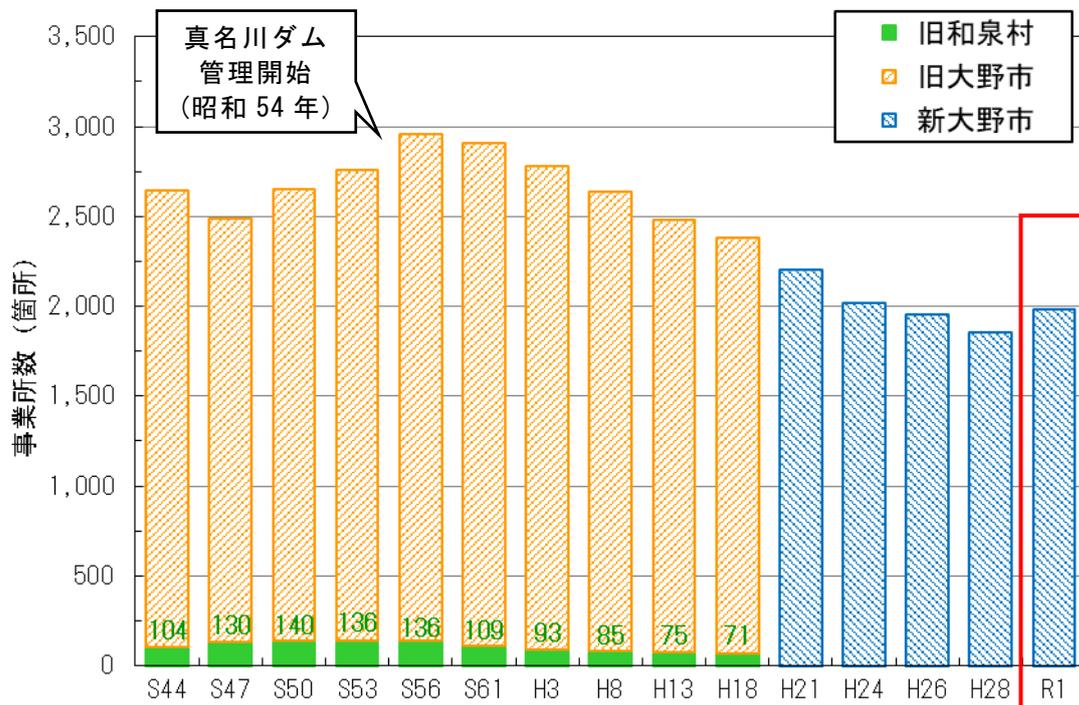


図 7.2-4 大野市(旧大野市・旧和泉村)の事業所数 経年変化

【出典：総務省・経済産業省「経済センサス(基礎調査結果・活動調査)」 昭和 44 年～令和元年】

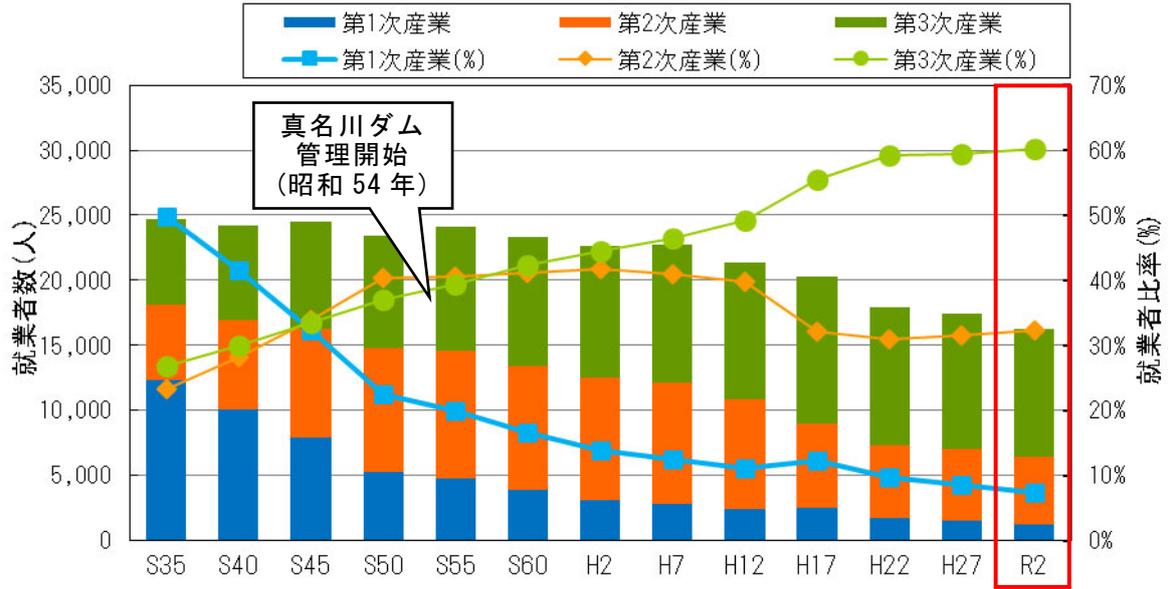


図 7.2-5 旧大野市の就業者数及び就業者比率 経年変化

【出典:令和3年 福井県統計年鑑】

7.2.2 ダムの立地特性

(1) ダムの立地条件

真名川ダムの水源地域は福井県大野市に位置している。平成 17 年 11 月 7 日に大野市と和泉村が合併し、新「大野市」が誕生した。同市の人口は 31,286 人（令和 2 年国勢調査）、面積は 872.43km²と福井県最大であり、その約 87%を森林が占めている。

【出典：令和 2 年国勢調査】

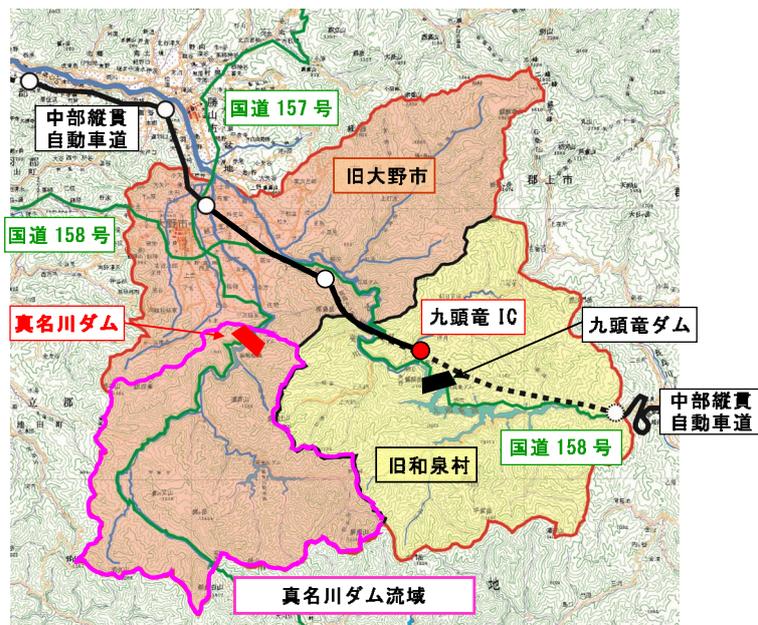
大野市は、福井県の東端に位置し、北東は石川県、東と南は岐阜県、西は福井市と池田町、北は勝山市と接している（図 7.2-1 参照）。

県都福井市から真名川ダムまでの距離は約 40km で、一般国道 158 号や中部縦貫自動車道を利用し約 1 時間の距離にある。また大野市の市街地、岐阜県郡上市からも車で約 1 時間 30 分の距離にあり、東海北陸自動車道等を利用すれば中京圏からも日帰り圏の距離にある。

水源地域を東西に通る一般国道 158 号は、福井県福井市から岐阜県高山市を經由して長野県松本市を結ぶ北陸、中部経済圏の産業、文化の交流を図る幹線道路で、地域の振興に欠かすことのできない道路である。

鉄道は、JR 越美北線（九頭竜線）が一般国道 158 号にほぼ平行して走り、福井駅で JR 北陸本線と接続している。また平成 27 年に北陸新幹線が金沢（石川県）まで開業し、現在は金沢～敦賀間の延伸区間を建設中であり、首都圏等からのアクセスが今後さらに良くなることが期待されている。

幹線道路等では、現在建設中の中部縦貫自動車道（大野 IC～勝原 IC が 2023 年 3 月 19 日に開通）は水源地域を東西に通過する計画となっており、完成すれば東海北陸自動車道で中京圏と北陸自動車道で関西圏との時間距離が短縮される。福井県の東玄関口となる奥越前にとっての、「生命の道」「生活の道」「希望の道」となると期待されている。



注 1) 現在の大野市は、旧大野市と旧和泉村が合併している

注 2) 令和 5 年 3 月 19 日に「大野 IC～勝原 IC」が開通。

令和 5 年 10 月 28 日に「勝原 IC～九頭竜 IC」が開通。

図 7.2-6 大野市域と真名川ダム周辺の概略道路図



図 7.2-7 中部縦貫自動車道(大野市周辺)の概要

【出典：福井河川国道事務所 令和5年度事業概要パンフレット】

交通アクセス(大野まで)

●東京から

JR/東京駅(新幹線)→米原駅(北陸本線特急)

→福井駅(JR 越美北線)→大野 約4時間40分

飛行機/羽田空港～小松空港(連絡バス)

→福井駅(JR 越美北線)→大野 約3時間20分

高速バス/東京駅八重洲南口～福井駅(JR 越美北線)→大野 約9時間

●大阪から

JR/大阪駅・京都駅(湖西線特急)→福井駅(JR 越美北線)→大野 約2時間50分

自動車/大阪(名神高速)→米原JCT(北陸自動車道)

→福井IC(国道158号)→大野 約3時間20分

高速バス/大阪市阪急三番街高速バスターミナル～

福井(JR 越美北線)→大野 約4時間30分

●名古屋から

JR/名古屋駅(北陸本線特急)→福井駅(JR 越美北線)→大野 約3時間10分

自動車/一宮(東海北陸自動車道)→白鳥IC(国道158号)→大野 約2時間50分

名古屋(名神高速)→米原JCT(北陸自動車道)

→福井IC(国道158号)→大野 約2時間40分

高速バス/名鉄バスセンター-JR名古屋駅～福井(JR 越美北線)→大野 約3時間50分

【出典：(一社)大野市観光協会「えちぜんおおの観光ガイド」、大野市HP】

(2) 大野市の観光入込

大野市(旧大野市域)における最近10年間の観光入込客数を以下に示す。

至近10ヶ年の観光入込客数は、平成25年から増加傾向にあり、平成28年には約138万人に達した。その後は緩やかに減少し、令和2年度には新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、一時的に約70万人まで急激に減少した。令和3年度には、新型コロナウイルスによる規制が緩和されると同時に、観光入込客数も過年度と同じレベルへと回復した。

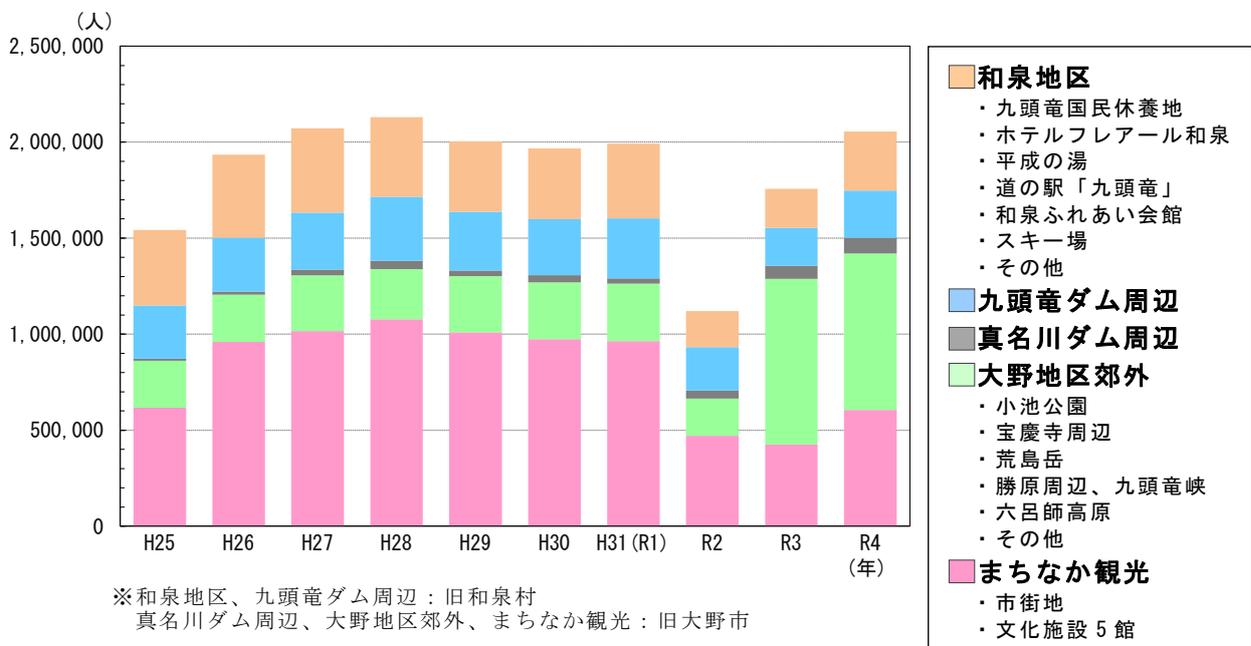
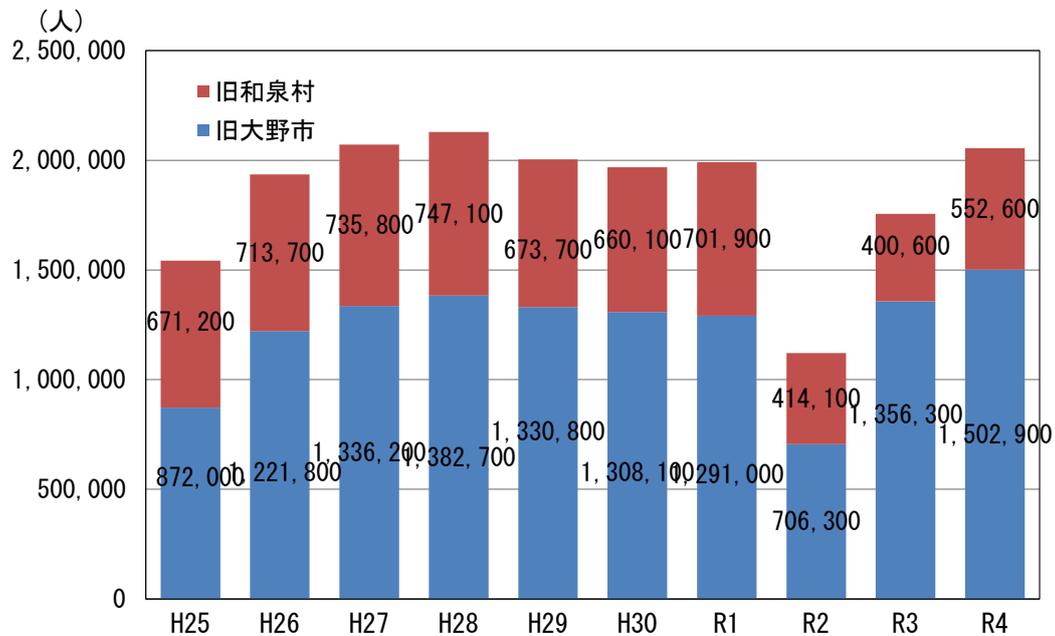


図 7.2-8 大野市における観光入込客数の推移
(上図：旧和泉村と旧大野市の内訳、下図：詳細内訳)

【出典：大野市商工観光課資料】

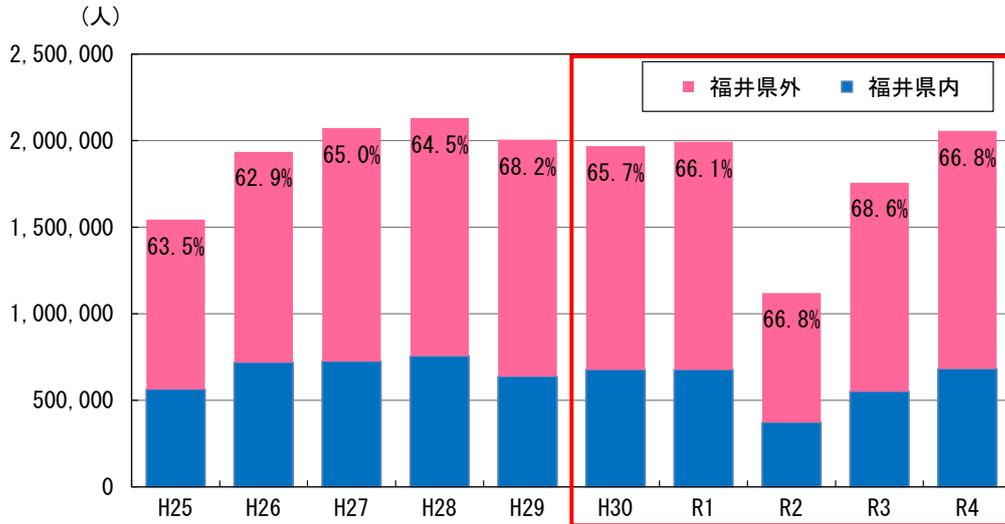


図 7.2-9 大野市の県内外別観光入込み客数の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

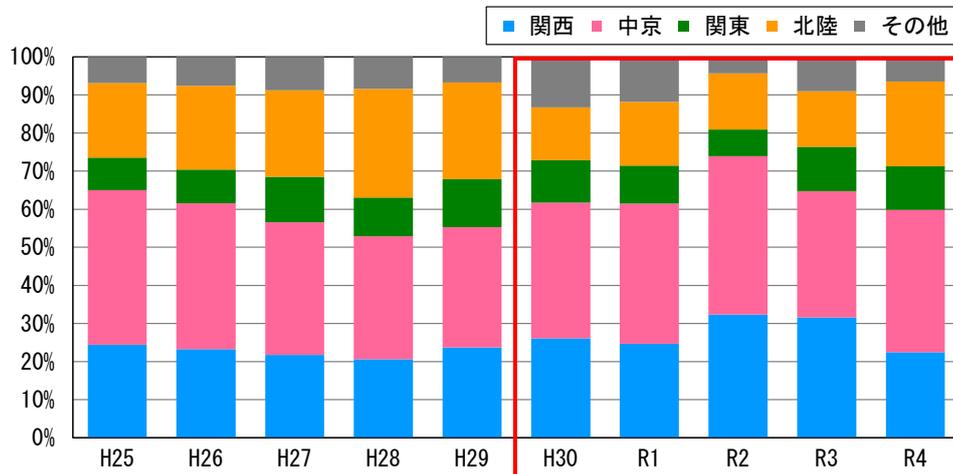


図 7.2-10 大野市の県外観光客の発地内訳の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

7.3.1 真名川ダム事業と地域社会の関わり

真名川ダム事業と地域社会の関わりの変遷を年表に整理した。

表 7.3-1 真名川ダム事業と地域社会の変化

年代	真名川ダム事業 インフラ整備事業	地域社会の変化
M22		大野郡内に2町23村を決定
T3		越前電鉄の福井・大野間が開通
S29		2町6ヶ村が合併して大野市が発足
S33		市営農場事業開始
S40	実施計画調査着手	大野市農協発足 駅東土地区画整理事業完成 奥越豪雨、台風24号
S41	九頭竜川水系工事实施基本計画	
S42	建設工事着手	
S43	越美北線北大野駅営業開始	
S45		西谷村を編入合併
S46		大野市森林組合発足
S48		大野市振興計画策定
S49	京福電鉄大野～勝山間廃線	
S50	主要地方道大野・墨俣線が国道157号に昇格	
S52	真名川ダム竣工	県営真名川発電所完成 地下水保全条例制定
S54	真名川ダム管理開始	
S55		大野市総合計画基本構想策定
H8	水環境改善事業完成	
H12	弾力的管理試験開始	
H15	ダム管理用水力発電運転開始	
H16	真名川ダム水源地域ビジョン策定	
H17	真名川ダム濁水対策検討委員会設置	和泉村と合併し和泉支所を開設 大野市地下水保全管理計画を策定
H18	九頭竜水系河川整備基本方針策定 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン策定	
H19	九頭竜川水系河川整備計画策定	「湧水保全フォーラム全国大会 in 越前おおの」開催
H20		「森と湖に親しむつどい 2008 九頭竜湖・麻那姫湖サマーフェスタ」開催 「大野市中心市街地活性化基本計画」が認定
H21		全国植樹祭を奥越会場でも開催 越前おおの食文化の祭典と全国高校生食育王選手権大会を開催
H25	中部縦貫自動車道永平寺大野道路の大野・勝山間が開通	
H27		大野市人口ビジョン・総合戦略策定
H28		水への恩返し財団発足
R3		第六次大野市総合計画策定 道の駅「越前おおの荒島の郷」開設

7.3.2 観光イベント等の開催

真名川ダムの水源地域である大野市(旧大野市)では、次のような観光イベントが開催されている。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、コロナ禍においては一部のイベントの開催が中止された。

表 7.3-2 大野市(旧大野市)における開催イベント

月	イベント名	会場	内容
2月	結の故郷 越前おおの冬物語	越前おおの結ステーションほか (大野市まちなか一円)	約300基の雪見灯ろう、雪のモニュメント、花火、冬のあったか市、ウォークラリー、「でっち羊かんまつり&ふるさと味物語」の同時開催等
3月(～11月)	七間朝市	七間通り	地域の農産物や加工品の販売
5月	七間朝市 山菜フードピア	七間朝市	越前おおの豊かな自然に育まれた農産物や様々な種類の山菜などの販売、山菜茶屋の開設、花苗や友好都市や地域の物産や特産品などの販売
7月	森と湖に親しむ旬間	真名川ダム周辺	真名川ダム見学会、パネル展示、流木工作教室、流木・堆肥の配布等
8月	おおの城まつり	大野市内の各会場	大花火大会、地元の小学生の芸能発表会、中学生みこしダンスパフォーマンス、盆踊りなど
10月	三大朝市物産まつり	大野市内の各会場	農産物を中心とした「越前おおの」の特産・名産品の即売市、友好都市や近隣のまちの物産市等

【出典：大野市 HP「えちぜんおおの観光ガイド」】

◆結の故郷 越前おおの冬物語(2月)

大野の冬の一大イベントで、雪で作成されたモニュメントや雪見灯ろうやイルミネーションなどで会場を彩る。花火もあがり、越前おおの冬の風物詩のひとつとなっている。「でっち羊かんまつり&ふるさと味物語」が同時開催され、冬季休止中の「七間朝市」も特別に開催される等、冬の味覚を堪能できる。



【出典(写真)：(一社)大野市観光協会「えちぜんおおの観光ガイド」】

◆七間朝市(3～11月)

3月下旬から11月末にかけて、大野城下町「七間通り」で開催される青空直売市。400年以上の歴史を持つ当イベントでは、地域の農家が育てた農産物や地元加工品が路上に所狭しと並べられると同時に、食材に関する情報交換の場としても利用されている。



【出典：(一社)大野市観光協会「えちぜんおおの観光ガイド」(一部加工)】

◆七間朝市山菜フードピア(5月)

七間朝市の春季イベントとして、『春の味覚満載フードピアを』をキャッチフレーズに奥越の山々で収穫した、山菜を中心とする春の味覚を、存分に味わってもらう催し。山菜茶屋の開設や、花苗の即売、友好都市や朝市ゆかりの地域の物産や特産品なども販売される。



【出典(写真):(一社)大野市観光協会
「えちぜんおおの観光ガイド」】

◆森と湖に親しむ旬間(7月)

森と湖に親しみ心身をリフレッシュしながら、森林やダム湖の重要性について理解を深めていただくためことを目的としている。真名川ダム見学会、パネル展示、流木工作教室、流木や堆肥の配布等が開催されている。



◆おおの城まつり(8月)

夏の一大イベント「おおの城まつり」は、毎年8月のお盆期間に4日間にわたり開催され、市内の各会場で踊りやイベント、大花火大会や「越前おおのおどり」など、浴衣の市民や帰省客で、情緒ある町は賑わいをみせる。



【出典(写真):福井県公式観光サイト
「ふくいドットコム」】

◆三大朝市物産まつり(10月)

三大朝市物産まつりは、毎年10月の第4土日に七間通りで開催される秋の食祭である。大野の朝市を始め、友好市町の朝市や物産の即売など、各地のとれたての山海の幸が勢揃いする人気のイベントである。



【出典(写真):(一社)大野市観光協会
「えちぜんおおの観光ガイド」】

7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

真名川ダムは、真名川ダムは、「名水のまち」旧大野市の近郊に立地するダムであるが、雄大な奥越山岳地帯に位置する奥山型ともいえる立地条件にあり、周辺は福井県内で有数の林業地帯でもある。都市域との広域的な交流は比較的利便性が良く、大野市街地との連携・ネットワークにより、その活用が大いに見込める条件にある。

(1) 真名川ダム水源地域ビジョン(平成16年3月策定、平成18年2月に九頭竜ダム水源地域ビジョンと統合)

「真名川ダム水源地域ビジョン」は、大野の水文化の再生を目指し、現代の発達した社会経済の中に、昭和30年代の大野の水情緒を実現する「水のランドデザイン」を描くもので、この「水のランドデザイン」は、大野の山や川を「里山」や「身近な自然」として再生し、この再生の段階を地域活性化のテーマとするものである。

真名川ダム水源地域ビジョンの基本方針を図7.4-1に、施策の実施イメージを図7.4-2に示す。

【真名川ダム水源地域ビジョン 基本方針】

—里山の再生—水源林を保全する—

- 健全な水循環を確保する第一歩として、美しい森林の緑のダムを人々の理解や愛着によって再生する必要があります。
- 林業の活性化だけでなく、国土保全としての防災的な必要性とともに、雇用確保などの今後の社会的な課題となることが考えられます。

—清水や水路の自然再生—地域的な水管理に取り組む—

- 様々な用途で利用され重要な地域資源となっている大野の地下水や、市内の水路や河川などの地下水涵養の供給源を保全し、大野の情緒ある生活環境やうらおいのある自然環境を再生します。
- 従来の地域用水の様々な管理状況を見直し、真名川ダムの貯水池運用の工夫とともに、下流の水路網の整備による農業用水の配水管理を検討します。
- イトヨやホタルが生息する水空間の再生や豊かな地下水を取り戻すとともに、水管理における関係機関での調整や市民参加での取り組みが極めて重要となります。

—人間関係の再生—上下流交流を促進する—

- 大野の水環境を改善しながら、高齢者福祉まで含めて地域の相互扶助が拡充していく必用があります。
- 地域の水環境の保全に向けて地域の共同体を再生し、さらに下流との広域交流の受け入れ体制づくりなどを進め、地域の結束を高めて人間関係を豊かにすることが重要です。

図 7.4-1 真名川ダム水源地域ビジョンの基本方針

【出典：真名川ダム水源地域ビジョン 平成16年3月】

「水のグランドデザイン」としてのビジョン施策のメニュー

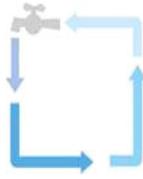
施策の柱	施策	具体的内容	
水源林の保全 (水源涵養と 林業の活性化) 	森林施業との連携	・健全な水循環・水源涵養機能保全や観光資源の保全のための森林施業と連携した山林の維持管理・保全	
	雑木林(里山)の活用	・交流拡大のための下草刈りや落葉かき等、山林保全活動と組合せて楽しめる多彩なイベント・メニューの提供	
	林業ボランティア	・循環型社会や環境をテーマに活動する各種の組織・団体等の幅広い環境ボランティアとの連携の検討 ・環境保全活動へのボランティア参加についてのメニュー企画や、意識啓発及び地域間交流の促進	
大野の「水」 	ダム管理と 周辺整備	河川の維持流量等の確保の研究 ・適正な水利用、河川及び市内水路での流量確保の研究 ・非かんがい期の「目に見える水路」に水を流す検討	
	地下水保全を図る 貯水池運用の研究	地下水保全を図る 貯水池運用の研究	・真名川ダム貯水池運用の工夫による放流可能量の確保や、それによる地下水涵養等の研究
		中島公園の充実	・日帰り・宿泊用のレクリエーションの機能の充実 ・周辺の山を生きた自然観察園としての活用 ・川や湖面での釣り等、水面の活用についての研究
	大野盆地の 健全な水環境 	水路網の復元	・大野市の風景として市内を流れる水路網の景観保全 ・覆蓋されている水路での「せせらぎ」の可視化
		水を活かした公園づくり	・水環境・親水性のある公園(ビオトープ)の整備
		農業用水管理との連携	・地下水涵養源である田圃による湛水期間と面積の拡大 ・用排水路に可能な限りの通水
		地下水位のモニタリング	・市内中心部の地下水位の監視の継続 ・市民や地下水利用者への理解のための地下水状況の広報
	水と社会との 関わり (情操や環境 啓蒙活動) 	水文化や愛護活動	・水文化や水の歴史をテーマにしたフォーラム等の開催 ・水環境保全の活動(河川清掃・生き物観察等)企画
		親和性の高い水生生物の保全	・イトヨなどの水生生物とその生息環境保全の活動の継続 ・水辺の再生とそこに生きる動植物の保全活動
		家庭排水対策	・家庭雑排水の市内水路への直接排水の防止 ・市民の「水に関する意識」の高揚
上下流交流 (都市との 広域交流) 	NPO活動の拡充	・山林・河川の維持管理等、循環型社会や環境に関する各種の組織・団体・環境ボランティア等との連携や活動拡充	
	活動の人材の確保・育成	・交流活動の活性化に関する人材の発掘、人材ネットワークの作成、活性化活動をリードする団体・個人等の育成 ・各分野のマイスターや環境学習インストラクターの募集	
	近隣地域との相互訪問	・環境保全活動へのボランティア参加についてのメニュー企画や、意識啓発及び地域間交流の促進	
	県外との交流	・受益地等の関係地域の住民による水源地域の維持管理の参加のため、環境ボランティアの参加・受入れ体制の確立	
	中山間地域の活用	・周辺市町村からの誘致などによるグリーンツーリズム	
各種情報の発信	・水源地の実態や都市交流のための情報発信 ・地域の相互連携や都市との交流のための各種情報の発信 ・光ファイバー網の活用		

図 7.4-2 真名川ダム水源地域ビジョン 施策メニュー

【出典：真名川ダム水源地域ビジョン 平成16年3月】

(2) 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの推進

平成17年11月の旧大野市と旧和泉村の合併に伴い、真名川ダム・九頭竜ダムの水源地域ビジョンを一体的に推進するため、平成18年2月に「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」が設立された。

「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、ダム水源地域の自治体・住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する、水源地域活性化のための行動計画である。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンでは、「森林」、「水」、「交流」を3つの柱のもとに水源林の保全や活用、健全な水環境の形成、多様な水辺の活用、活発な地域間の交流など様々な施策を実行することにより、水源地域の持続的な発展を目指す。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの活動イメージ、施策概要図を以下に示す。



図 7.4-3 令和3年7月 ビジョン委員会資料「水源地域ビジョンの施策の体系と取り組み、実施イメージ」

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】



図 7.4-4 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン 施策概要図

【出典：平成 30 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会】

(3) 令和4年度以降の水源地域ビジョンの推進

「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、平成17年度に策定して以来、「森林」「水」「交流」の3つを柱として様々な活動に取り組んできた。一方で、令和3年に「大野市水循環基本計画（以下、水循環基本計画）」が策定され、大野市の水循環のさらなる健全化に向けた総合的な取り組みがスタートした。

水源地域ビジョンの「森林」「水」に関する施策の大半は、水循環基本計画で推進する施策と共通しているため、今後は大野市水循環推進協議会との連携・調整を図りながら各種施策を推進することとした。

一方、「交流」に関する施策は、水源地域ビジョン独自の取り組みが多数あるため、令和4年度に、水源地域ビジョン推進委員会の中に「水源地域交流推進協議会」を新たに設置し、引き続き関係機関と意見交換を行いながら取り組んでいくこととした。

なお、水源地域ビジョンとして策定した目的や方針は、今後も引き続き関係機関との連携の中で継続していく。



図 7.4-5 今後の水源地域ビジョンの施策の推進イメージ

7.4.2 地域とダムとの関わり

真名川ダムでは、地元地域との関わりとしてダム見学会開催などの様々な活動を実施している。平成30(2018)年～令和4(2022)年度の活動を表7.4-1に示す。九頭竜新緑まつり、森と湖に親しむ旬間行事、九頭竜紅葉まつり、ダム周辺の紅葉情報の提供、ダムカードの配布、真名川ダム見学等は毎年恒例となっている。しかし令和2,3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部イベント等は中止となった。

地域とダムでは、水源地域ビジョンにある「森林」、「水」、「交流」の3つの柱をもとにした取り組みが実施されており、今後も継続することが望ましいと考えられる。

表 7.4-1 (1) 真名川ダムにおける地域との交流に係る活動(平成30年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成30年1月19日(金)～3月26日(月)	真名川ダム農産物貯蔵	真名川ダム敷地内のトンネル	年間を通して温度・湿度が安定している真名川ダムの漏水防止のために作られたトンネルを活用して、野菜や果物などを一時貯蔵する実験を行った。	—	大野市、九頭竜川ダム統合管理事務所
4月～9月の土日祝 計12日 8:00～15:00	真名川ダム・荒島トンネル工事現場等を巡るインフラツアー	越前大野駅→真名川ダム見学→中部縦貫道荒島トンネル見学→昼食(大野市内)→工芸政策体験等→越前大野駅	福井県の魅力を再発見するきっかけ作りを目的に、名水の町として知られる大野の水資源、真名川ダムの内部を歩き、ダムの大きさを五感で体感できるツアーを行う。大人6,500円子供5,500円	—	大野観光自動車株式会社
平成30年5月19日(土)・20日(日)	第32回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民体育地(大野市角野)	・新緑ステージ、新緑市場(特産品の販売)、化石発掘体験、ふるまい大鍋、団体PR企画(771シグ体験)、遊びの広場等 ・パビリオン、流木の無料配布	約22,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成30年5月20日(日) 8:30～10:30	九頭竜川クリーンアップ大作戦 ※「流域全体」という意味で九頭「龍」川にしている。	真名川 富田大橋の下広場(福井県大野市麻生島)	・ゴミ拾い	63人	NPO法人ドラゴンリバー交流会、興越漁業協同組合、大野市漁業協同組合
平成30年(第1回)6月5日(火) (第2回)6月21日(木) (第3回)7月23日(月) (第4回)9月10日(月) (第5回)9月18日(火) (第6回)10月23日(火) (第7回)12月17日(月)	利活用ミーティング		昨年度の意見交換会をもとにまとめた「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン 重点的な取り組み(案)」のプログラム試行期間として、可能なものから「やってみる」ことを実践しながら継続的な取り組みにつなげることを目的とする。 定期的な意見交換会とはせず、活動やイベントの開催に向けて必要に応じてミーティング等を開き、実践の計画やふりかえりのための話し合いを行った。	10名	和泉自治会・大野市観光協会・和泉地区婦人会・NPOドラゴンリバー交流会・興越漁業協同組合・道の駅九頭竜、九頭竜カヌークラブ、ノーム自然環境教育事務所・越前おおの農林楽舎・大野市 産経建設部・大野市 商工観光振興課
平成30年6月16日(土)・17日(日)	第11回もみずカップ少年サッカー大会	興越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に「森と湖に親しむ旬間」全国行事が大野市で開催された事を記念して始まったもので、九頭竜川の水源地から下流まで九頭竜川のもたらす豊かな自然を愛する心・感謝する心を育てながら参加チーム相互の親善を深める大会となっている。	16チーム	もみずカップ実行委員会
平成30年7月15日(日)	越前おおのエコフィールド「森づくりイベント(平家平植樹区域)林床整備」	大野市平家平	・植樹した「ドングリ」の苗木の除草刈り、枯れ木等の除去 ・「ドングリ」の苗木への補助杭の打設とテープ巻き	22名	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成30年8月3日(金) 9:00～16:00	越前おおの環境塾	麻那姫湖青少年旅行村(福井県大野市中島)	大野市内の子ども達が、普段なかなか体験することの出来ない川遊びや水の中の生き物調査などを体験。 川の生物を採取して分類したり、バックネットの水質を調べ、水のきれいさや大切さを学んだ。また川遊びでは最初に安全な泳ぎ方を教わり、その後水のかけあいや川に潜ったり、一列に並んで川流れを楽しんだ。	19名	大野市、九頭竜川ダム統合管理事務所
平成30年10月14日(日)	越前おおのエコフィールド「ドングリの森づくりイベント」	平家平、秋生、越前おおのエコフィールド	・「ドングリ」の苗木越冬作業 ・「ドングリ」の苗木の回収	約100人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成30年10月16日(火)～11月20日(火)	ダム周辺の紅葉情報提供	真名川ダム周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖を巡視した際に写真撮影し、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ及びフェイスブックに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成30年10月27日(土)・28日(日)	第39回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民体育地(大野市角野)	・紅葉ステージ、紅葉市場(飲食広場、特産品の販売)、ふるまい大鍋、ミニSL乗車体験、化石発掘体験、遊びの広場(木工体験)など ・パビリオン、流木の無料配布	約48,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成30年11月7日(水)	「水源地の森づくり」第11回植樹会	真名川ダム上流笹生川沿い(福井県大野市中島)	平成18年から水源地の保全・育成、森づくりの意識の向上および上下流の人々の交流と流域連携の促進を目的に開催。 「越前おおのエコフィールド管理・運営協議会」と「NPO法人ドラゴンリバー交流会」の会員が「ドングリ」から育てた苗木などの苗木100本を各自が持ち寄ったスコップで植樹。 ダム湖の流木処理材を利用して作った堆肥を根元に施した。	約50名 (13団体・一般参加者)	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会
平成31年3月19日(火) 15:00～17:00	平成30年度真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会	結とびあ 201,202号室	「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」では、水源地の保全や活用、健全な水環境の形成、多様な水辺の活用、活発な地域間の交流などの様々な施策を実施することにより、水源地域の持続的な活性化を目指す。	23名	九頭竜川ダム統合管理事務所
通年	ダムカードの配布	真名川ダム管理支所	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	2,466枚 (累計17,321枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム見学	真名川ダム	・60分コース 管理支所→ゲート室→水力発電機室→噴水前 ・30分コース B1コース:管理支所→ゲート室 B2コース:管理支所→水力発電機室→噴水前を見学	336人	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：平成30年度 真名川ダム年次報告書】

表 7.4-1 (2) 真名川ダムにおける地域との交流に係る活動(令和元年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成31年4月5日(金) 平成31年5月8日(水) →最小催行人数に満たなかったで中止	ダムカードを集めよう！九頭竜ダム&真名川ダム編	九頭竜ダム、真名川ダム、長野発電所、大野市街	岐阜駅北口(集合)→九頭竜ダム見学→長野地下発電所見学→大野市街で昼食・散策→真名川ダム見学→岐阜駅北口(解散)	22名	岐阜バス(岐阜乗合自動車(株))
令和元年5月18日(土) ・19日(日)	第33回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地(大野市角野)	・新緑ツアー、新緑市場(飲食市場、特産品の販売)、化石発掘体験、ふるまい大鍋、ビンゴ大会(19日)、遊びの広場等 ・バザール、流木の無料配布	約23,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
令和元年6月16日(日) 8:00~10:00	九頭竜川※クリーンアップ大作戦※「流域全体」という意味で九頭「龍」川にしている。	真名川 富田大橋の下広場(福井県大野市麻生島)	・ゴミ拾い	72名	NPO法人ドラゴンリバー交流会、大野市漁業協同組合、大野ライオンズクラブ
令和元年6月1日(土) ~6月16日(日)	パネル展(真名川ダム管理開始40周年記念イベント)	大野市役所市民ホール	ダム建設の契機となった奥越豪雨(昭和40年9月)による旧西谷村の災害の記録、ダム建設当時の工事状況の写真や新聞記事を展示。また、大きな被害をもたらす洪水などへの防災・減災の意識向上を目的として洪水時のダムの役割・効果などの紹介。		大野市、九頭竜川ダム統合管理事務所
令和元年9月11日(水) ~9月16日(月)		ショッピングシティ・ベル1階イベント広場		約950人	
令和元年(第1回)6月11日(火) (第2回)7月1日(月) (第3回)7月17日(水) (第4回)8月7日(水) (第5回)8月23日(金) (第6回)10月7日(金) (第7回)12月2日(月)	利活用 ミーティング		昨年度実施したプログラムを改良しながら継続するとともに、新たなプログラムについてもアイデアを出し合い企画・準備、試行した。定期的な意見交換会とはせず、活動やイベントの開催に向けて必要に応じて「ミーティング」等を開き、実践の計画やふりかえりのための話し合いを行った。	10名	・和泉自治会 ・大野市観光協会 ・NPOドラゴンリバー交流会 ・奥越漁業協同組合 ・道の駅九頭竜 ・スポーツワールド ・ノーム自然環境教育事務所 ・大野市 産経建設部
令和元年6月15日(土) ・16日(日)	第12回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に「森と湖に親しむ旬間」全国行事が大野市で開催された事を記念して始まったもので、九頭竜川流域の市町のチームを招いて、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子ども達の心身の健全な発育を図り、相互の親善を深めるとともに、個人技術の上達を図ることを目的としている大会。 ※15日終盤から16日は悪天候のため中止	16チーム(約300人)	もりみずカップ実行委員会
令和元年7月27日(土)	森と湖に親しむ旬間行事「ダム見学会」	真名川ダム 笹生川ダム	・ダム見学 ・管理40周年記念ブース ・流水工作教室 ・新ダムカードの配布 ・展示と森のマスコット作り ・パネル展示 ・流水、堆肥のプレゼント	約200人 約60人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
令和元年7月13日(日)	越前おおのエコフィールド「森づくりイベント(平家平植樹区域)林床整備」	大野市平家平	・植樹した「ドングリ」の苗木の除草刈り、枯れ木等の除去 ・「ドングリ」の苗木への補助杭の打ち直し等	16名	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会委員等
令和元年8月3日(土) 9:00~16:00	越前おおの環境塾	麻那姫湖青少年旅行村(福井県大野市中島)	大野市内の子ども達が、普段なかなか体験することの出来ない川遊びや水の中の生き物調査などを体験。 【水調査隊】・水生生物さがし・水生生物の観察・バックテストで水質測定 【川遊び】・石ころでアート・ライフジャケットを着て、安全な浮き方や、救助ロープを使った動水圧の体験・スイカ割り	13名(保護者含む)	大野市・九頭竜川ダム統合管理事務所
令和元年10月5日(土)	越前おおのエコフィールド「ドングリの森づくりイベント」	南六呂師、越前おおのエコフィールド	・「ドングリ」の苗木越冬作業 ・「ドングリ」拾い	約120人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
令和元年10月15日(火) ~11月26日(火)	ダム湖周辺の紅葉情報提供	真名川ダム周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮影し、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ及びツイッターに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
令和元年10月26日(土) ・27日(日)	第40回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地(大野市角野)	・紅葉ツアー、紅葉市場(飲食広場、特産品の販売)、ふるまい大鍋、ミSL乗車体験、化石発掘体験、重点道の駅名称発表、思い出カプセル便コーナー、遊びの広場(木工体験)など ・バザール、流木の無料配布	約52,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
令和元年10月26日(土) 9:00~13:30	真名川ダム・笹生川ダムと中島発電所見学ツアー	真名川ダム、中島発電所、笹生川ダム	台風や集中豪雨等で災害が多く発生していることや、地球環境にやさしい水力発電が見直されていることを踏まえ、笹生川ダムや中島発電所、真名川ダム各施設の役割について学ぶ見学ツアーを紅葉の時期にあわせて開催した。	27名	福井県笹生川・浄土寺川ダム統合管理事務所 北陸電力(株) 九頭竜川ダム統合管理事務所
令和元年10月30日(水) 9:45~11:00	「水源地の森づくり」第12回植樹会	真名川ダム上流笹生川沿い(福井県大野市中島)	平成18年から水源地の保全・育成、森づくりの意識の向上および上下流の人々の交流と流域連携の促進を目的に開催。 「越前おおのエコフィールド管理・運営協議会」と「NPO法人ドラゴンリバー交流会」の会員が「ドングリ」から育てた広葉樹(ナナ)等の苗木を各自が持ち寄ったスコップで300本を植樹。ダム湖の流木処理材を利用して作った堆肥を根元に施した。	約40名(13団体)	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会
通年 9:00~17:00(土・日・祝日含む)	ダムカードの配布	真名川ダム管理支所	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	5,152枚(累計22,473枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
通年 9:00~16:00(平日のみ実施)	真名川ダム見学	真名川ダム堤体内及び周辺施設(噴水等)	・60分コース 管理支所→ゲート室→水力発電機室→噴水前 ・30分コース B1コース:管理支所→ゲート室 B2コース:管理支所→水力発電機室→噴水前を見学	706人	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：令和元年度 真名川ダム年次報告書】

表 7.4-1 (3) 真名川ダムにおける地域との交流に係る活動(令和2年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
	ダム湖周辺の紅葉情報提供	真名川ダム周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮影し、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ及びツイッターに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
通年※ 9:00～17:00 (土・日・祝日含む)	ダムカードの配布	真名川ダム管理支所	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	363枚 (累計22,836枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
通年※ 9:00～16:00 (平日のみ実施)	真名川ダム見学	真名川ダム堤体内及び周辺施設(噴水等)	・60分コース 管理支所→ゲート室→水力発電機室→噴水前 ・30分コース B1コース:管理支所→ゲート室 B2コース:管理支所→水力発電機室→噴水前 を見学	72人	九頭竜川ダム統合管理事務所

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により2月28日から10月31日までダムの見学・ダムカードの配布を中止

【出典：令和2年度 真名川ダム年次報告書】

表 7.4-1 (4) 真名川ダムにおける地域との交流に係る活動(令和3年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
令和3年4月22日(木) 9:00～	「越前おおの荒島の郷(あらしまのさと)」開駅式典	道の駅 「越前おおの荒島の郷」 9:00～18:00 (定休日:12月31日、1月1日) ※道路情報提供コーナー、トイレは24時間利用可能	荒島岳の麓にアソシ、地元食材を使ったフードコートや地場産品が買える「荒島マート」、アクトアソシ「モバ」の出店や、オヌ・クリエイティブ体験が出来、県内最大の道の駅となっている。また大規模災害を想定し、防災拠点として自家発電設備や防災倉を設置している。情報コーナーにはダム情報を表示するモニターの設置や、九頭竜川水系に生息する希少な魚類の飼育展示をしている水族館がある。開駅式典では、道の駅登録証の伝達や、テープカット、地元保存会の太鼓の演奏や、パルンリリースなどが行われた。	初日来場者: 約4500人	中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社
令和3年6月6日(日) 8:00～12:00	第18回 身近な水環境の全国一斉調査	真名川	平成16年度より、世界環境デー(6月5日)に最も近い日曜日を中心に「身近な水環境全国一斉調査」として、全国各地で水質調査が行われており、大野市では「大野の水環境ネットワーク」主催で九頭竜川流域の真名川、清竜川、赤根川、木瓜川、善導寺川に分かれて水質調査を実施している。	17名	大野の水環境ネットワーク
令和3年6月12日(土) ・13日(日) ※13日は雨のため中止	第13回 もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場 (福井県大野市篠座)	平成20年に「森と湖に親しむ旬間」全国行事が大野市で開催された事を記念して始まり、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子ども達の心身の健全な発育を図り、親善を深めるとともに、個人技術の上達を図ることを目的に行われている。	16チーム	もりみずカップ実行委員会
令和3年6月13日(日) 8:00～9:30	クリーンアップふくい大作戦 ～九頭竜川と河川ごみ一掃統一行動～ ※「流域全体」という意味で九頭「龍」川にしている。	真名川の富田大橋付近河川敷 (福井県大野市麻生島地先)	九頭竜川沿市町では、「海岸ごみの発生防止」をテーマに、6会場において、地域住民の方々や各種団体、企業・行政が連携し、ふくいの美しい自然を守るため清掃活動を行っている。	120名	福井県、 NPO法人ドラゴンリバー交流会 他
	ダム湖周辺の紅葉情報提供	真名川ダム周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮影し、「紅葉情報」としてツイッター等に掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
通年※ 9:00～17:00 (土・日・祝日含む)	ダムカードの配布	真名川ダム管理支所	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	415枚 (累計23,251枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
通年※ 9:00～16:00 (平日のみ実施)	真名川ダム見学	真名川ダム堤体内及び周辺施設(噴水等)	・60分コース 管理支所→ゲート室→水力発電機室→噴水前 ・30分コース B1コース:管理支所→ゲート室 B2コース:管理支所→水力発電機室→噴水前 ダム堤頂コース:管理支所→ダム堤頂左岸→ダム堤頂右岸	4人	九頭竜川ダム統合管理事務所

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により4月27日から6月4日、6月25日から10月14日、令和4年1月14日～4月24日までダムの見学を休止

【出典：令和3年度 真名川ダム年次報告書】

表 7.4-1 (5) 真名川ダムにおける地域との交流に係る活動(令和4年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
令和4年4月17日～ 令和5年3月31日 (休館日：月曜日・祝 日の翌日) ※12月1日～3月31日は 完全予約制	化石発掘体験	大野市化石発掘体験センター HOROSSA! (九頭竜国民休養地内)	交流人口の増加と地域活性化を目的に、九頭竜川上流域 に位置する和泉地区の地層から産出される恐竜やアモイ ト、貝類、植物などの化石を活用して化石発掘体験を開 催。鉄骨平屋建ての施設で、一度に最大200人が体験で き。古生代～中生代の地層の岩石を使って、多様な種類 の化石を異なる6つのゾーンから発掘することができる。	延べ5,649人 (令和5年2月28 日時点)	大野市
令和4年5月14日(土)～ 5月22日(日)	九頭竜まるごと体験マルシェ (例年開催されてきた「九頭竜新 緑まつり」から変更)	和泉地区 (道の駅九頭竜、九頭竜ダ ム、ホロッサ 等)	和泉地区の事業者がコアの中、この地区を盛り上げよう と力を集結した体験型マルシェ。 秋の味覚大鍋、昇竜太鼓発表演奏、うまいもん臨時売 店、手作りお菓子教室、紅葉めぐりバスツアー、釣り堀、お茶 臼体験 等	約9,300人	九頭竜まるごと体験マルシェ実行委員会
令和4年6月4日(土) ・5日(日)	第14回もりみずカップ少年サッ カー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に「森と湖に親しむ旬間」全国行事が大野市 で開催された事を記念して始まったもので、九頭竜川流 域の市町のチームを招いて、九頭竜水系のもたらす豊か な自然に親しみ、自然を愛する子ども達の心身の健全な 発育を図り、相互の親善を深めるとともに、個人技術の 上達を図ることを目的としている大会。	16チーム (約300人)	もりみずカップ実行委員会
令和4年6月5日(日) 8:00～9:30	クリーンアップふくい大作戦 ～ふくい海ごみゼロチャレンジ 2022～	真名川憩いの島(大野市麻生 島)など	河川に投棄されたゴミが海へ流れ着くことで、魚や水辺 の生き物などへの悪影響を与えることから、九頭竜川沿 川町で「海ごみゼロ」をテーマに7会場に分け、地域住 民の方々や各種団体、企業・行政が連携した清掃活動を 実施している。	25名	福井県、NPO法人ドラゴンリバー交 流会など
令和4年6月12日(日) 8:00～12:00	第19回身近な水環境の全国一斉調 査	真名川、清滝川、赤根川、木 瓜川、善導寺川	平成16年度より毎年、世界環境デー(6月5日)に最も近 い日曜日に中心に「身近な水環境全国一斉調査」とし て、全国各地において行われている水質調査。河川水の 透明度やCOD、PH等の計測を実施した。	18人	大野の水環境ネットワーク
令和4年6月21日(火) ～10月16日(日) 計43回	カヌーを使った水辺の安全教室・ カヌー出前講座	九頭竜湖(下半原)、 B&G海洋センタープール、 市内小学校プール (下庄小・上庄小)	B&G財団のカーなどの無償貸与制度を活用して、市内の小 学生を対象に、アークやが湖でカーを使った水辺の安全教 室や、お茶出前講座を行った。 ・着衣泳、ライフジャケット浮遊体験、ペットボトル浮き、小学 生お茶体験、お茶の淹め方など	延べ798名	大野市
令和4年7月13日(水)	越前おおのエコフィールド「森づ くりイベント」 ・林床整備(南六呂師植樹区域) ・コスモス等の播種	南六呂師	・植樹した「ドングリ」の苗木の草刈り、枝等の除去 ・「ドングリ」の苗木への補助杭の打ち直し等 ・約100株の花苗の植え付け	18名	越前おおのエコフィールド管理・運 営協議会委員等
令和4年7月28日(木)・ 29日(金) 10:00～16:00	森と湖に親しむ旬間行事 「九頭竜ダム・真名川ダム見学 会」	九頭竜ダム・九頭竜湖 長野発電所 真名川ダム	森林やダム湖の重要性について理解を深めていただくこ とを目的に真名川ダムや九頭竜ダム・笹生川ダム、長野 地下発電所の見学会などを行っている。(令和4年度は堤体 見学会等の人数制限を実施) ・パネル展示 ・冬期連絡通路の開放・ダム施設見学 ・長野発電所見学 など	九頭竜ダム会場 約130人 真名川ダム会場 約80人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
令和4年8月1日(月) 9:00～15:40	自然ふれあい探検隊2022	麻耶姫湖青少年旅行村(中島 公園)	大野盆地を囲む山々を水源とした九頭竜水系雲川で、 自然とふれあいながら、河川の水環境を学ぶ学習会。子 供達は川に入って水生生物の捕獲や河川水の水質調査、 水難事故防止動画の視聴とライフジャケットを着用して の安全な浮き方や浪流登りなどを体験する。	18人	九頭竜川ダム統合管理事務所、大野 市
令和4年10月8日(日)	越前おおのエコフィールド 「ドングリの森づくりイベント」	南六呂師、 どんぐり広場	・ドングリの苗木越冬作業 ・ドングリの植樹	約80人	越前おおのエコフィールド管理・運 営協議会
令和4年10月18日(火) ～11月22日(火)	ダム周辺の紅葉情報提供	真名川ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖 等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週 九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ及びツイッ ターに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している 観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
令和4年10月29日(土) ・30日(日)	第43回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地 (大野市角野)	・紅葉ステージ、紅葉市場(飲食広場、特産品の販売)、 ふるまい大鍋、遊びの広場(緑日コーナー、木工体験)、 地元中学生による石焼き芋の販売など ・パネル展、流木の無料配布	約53,000人	大野市、 九頭竜まつり実行委員会
通年 9:30～16:30 (平日・休日を問わず 開館)	ダムカードの配布	真名川ダム管理支所	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	1,600枚 (累計24,851枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム見学	真名川ダム堤体内及び 周辺施設(噴水等)	・60分コース 管理支所→ゲート室→水力発電機室→噴水前 ・30分コース B1コース:管理支所→ゲート室 B2コース:管理支所→水力発電機室→噴水前 ダム堤頂コース:管理支所→ダム堤頂左岸→ダム堤頂右岸	417人	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料
九頭竜川ダム統合管理事務所 HP】

7.5 ダム周辺の状況

7.5.1 ダム周辺整備の状況

真名川ダム周辺環境整備事業は、真名川ダムの建設と合わせてダム周辺環境整備を実施し、ダム湖及び周辺区域の自然環境を活用して、周辺地域の活性化を図るものである。

真名川ダム貯水池周辺の環境整備は、ダム・貯水池周辺のうち、ダムサイト周辺地区、若生子大橋周辺付近(貯水池中流部)、中島地区(貯水池上流部)の3ヶ所を対象に整備を行っている。

環境整備のテーマは「四季の変化」とされており、各地区に分担させ、植栽によって表現させるようにした(図 7.5-1)。

- 1) ダムサイト付近：春をテーマとし、桜を基調とした展望の場を左岸、修景の場を右岸という風に植栽や整備を行った。
- 2) 若生子大橋付近：夏をテーマとし、日の谷橋下の滝周辺を整備し、滝のある景観、休憩スペース、駐車場の整備を行った。
- 3) 中島地区：秋をテーマにし、紅葉のイメージを基調とした植栽を行い、総合公園的な整備を行った。

真名川ダム周辺の各地区で整備テーマごとに植栽やキャンプ場、休憩所を設置しており、「森林」「水」「交流」の3つを柱とした「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」の施策方針に沿った整備状況であると伺える。

麻那姫湖青少年旅行村



ダムサイト右岸の修景の植栽

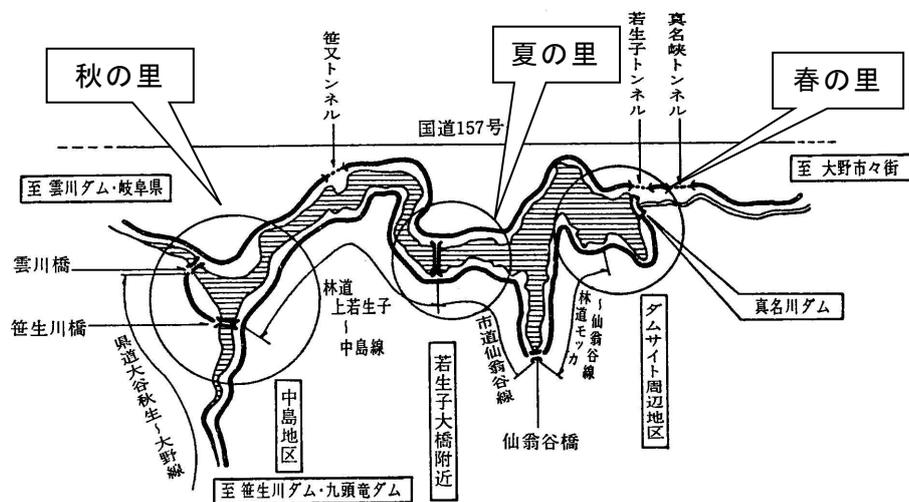


図 7.5-1 真名川ダム周辺環境整備位置図

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

表 7.5-1(1) 真名川ダム貯水池周辺整備事業(ダムサイト地区)

整備内容	施工内容	数量等
記念碑	コンクリート	95m ³
	舗装(アスファルト・カラー)	270m ²
	石およびモルタル張り	324m ²
	モニュメント コンテル材	2t
	植栽、低木	540本
案内板	舗装アスファルト	480m ²
	舗装カラー	453m ²
	コンクリート	29m ³
	石およびタイル	
	案内板(黒ミカゲ)	12m ²
	植栽高・低木	275本
慰霊碑	舗装(土間コンクリート)	10m ²
	コンクリート(RC)	28m ³
	石工事	7m ²
	レリーフ(ブロンズ0.75m×2m)	
	植栽高・低木	340本
展望台	植栽 桜、まつげ	30本
	盛 土	250m ²
	芝 生	400m ²
左岸道路沿い整備	舗装アスファルト	2,000m ²
	手摺り	260m
	盛 土	1,500m ²
	コンクリート	100m ³
	植栽	32本
骨材プラント跡整備	整 地	1式
	植栽 桜	410本
その他	1 式	

表 7.5-1(2) 真名川ダム貯水池周辺整備事業(若生子大橋付近)

整備内容	施工数量	摘 要
盛土	700m ²	
アスファルト舗装	100m ²	縁石工 60m
砂利舗装	500m ²	} 景観木、主木等
高木植栽	100本	
中木植栽	120本	
低木植栽	150本	
芝生	800m ²	
その他雑工事	1式	ベンチ、くず入れ、灰皿、案内板等

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

表 7.5-1(3) 真名川ダム貯水池周辺整備事業(中島地区)

整備内容	施工数量	摘要
切土	100,200m ³	昭和53年度施工
盛土	112,800m ³	〃
高木植栽	4,248本	〃
低木植栽	11,045株	〃
草木植栽	2,600株	〃
種子吹付	44,050m ²	〃
種子蒔付	61,740m ²	〃
道路延長	3,607m	幅員5m:185m、2.5m:2,230m 幅員4m:1,112m、1.5m:80m
アスファルト舗装	11,670m ²	〃
張芝	27,380m ²	〃
雑工事	1式	車止め24基、排水溝90m 広場施設(中央)1式

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.5.2 大野市によるダム貯水池周辺整備

真名川ダム貯水池周辺整備のなかで、表 7.5-2 に示す「秋の里」の中島地区の整備を昭和53年より大野市が実施してきた。

また、青少年の健全な旅行の推進を図り、あわせて過疎地域の振興に資する観光施設として、旧運輸省の補助制度を利用し、昭和40年9月の奥越豪雨によって壊滅的な被害を受けた大野市旧西谷村の跡地に麻那姫湖青少年旅行村(中島公園)を整備した。

春の里には、平成4年に麻那姫湖の由来となった麻那姫像の銅像を建てるなどの整備を実施している。

表 7.5-2 真名川ダム貯水池周辺整備事業(中島地区)

事業・年度		施工内容		
第一期事業	昭和53年	便所	1カ所	4穴
	昭和54年	給水施設	1カ所	2栓
		便所	1カ所	4穴
		緑の教室	1カ所	1,200m ²
		駐車場	舗装	
	昭和55年	ハレコート	クレー舗装	1,800m ²
		テニスコート	クレー舗装	1,400m ²
		便所	1カ所	4穴
	昭和56年	林の遊場	遊具等	1,600m ²
		自然植物園	植栽	2,500m ²
駐車場		舗装	1,450m ²	
給水施設		1カ所	2栓	
電気設備		3カ所		
第二期事業	昭和57年以降	管理棟		150m ²

麻那姫像



【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.5.3 ダム周辺施設の利用状況

大野市の観光統計資料によると、真名川ダム周辺の入込み客数は、至近 10 年間は増加傾向を示し、令和元年には新型コロナウイルスによる行動制限などの影響で一時的に減少したものの、令和 4 年は 8 万人を超えた。

また、真名川ダムの見学者は、令和 2,3 年の新型コロナウイルスの流行により大きく減少したが、令和 4 年度は回復傾向が見られる。

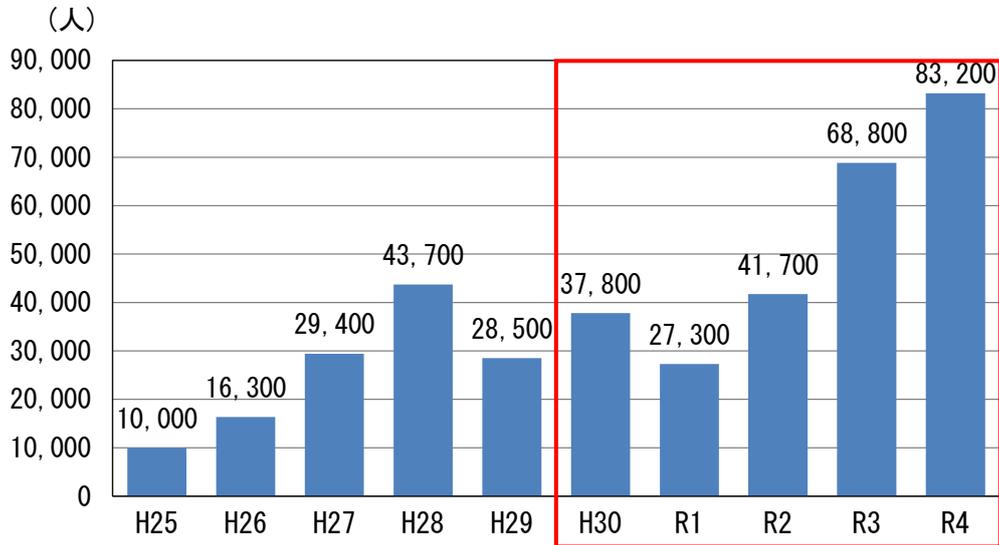


図 7.5-2 真名川ダム周辺の入込み客数の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

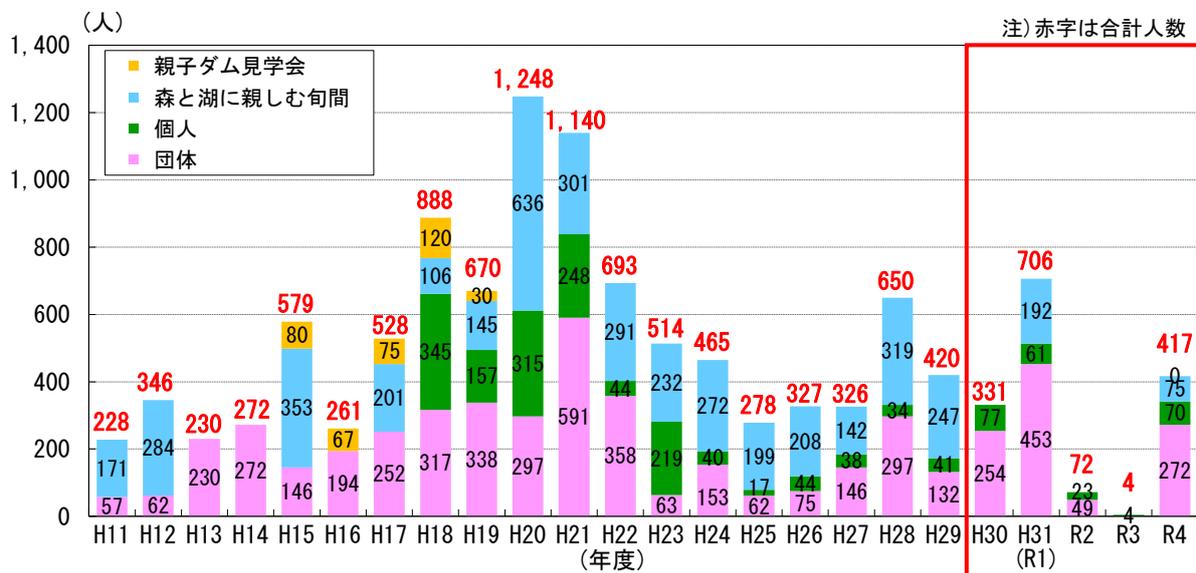


図 7.5-3 真名川ダムの見学者数の推移

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料
令和 3 年度 真名川ダム年次報告書】

7.5.4 ダムおよびダム周辺のイベント等の開催状況

(1) 森と湖に親しむ旬間行事等

真名川ダムでは、真名川ダム見学会を常時受け付けている。また「森と湖に親しむ旬間行事」の一環としても毎年見学会を開催している。

この他、NPOが主催する「どんぐりの植樹会」、ダム管理者が行っている「ダム周辺の紅葉情報のHPでの提供」など、多くの観光客が集まるイベントや情報提供が行われている。

なお新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、令和2,3年度は一部イベントが中止となった。

2022.7.28～29

真名川ダム・九頭竜ダムの役割と巨大さを体験 『森と湖に親しむ旬間』イベントを開催！

～九頭竜川ダム統管理事務所～

森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただくことを目的として、真名川ダムおよび九頭竜ダムの見学会を開催しました。

3年ぶりとなる今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策や堤体見学人数の制限を行っての開催となりました。真名川ダム会場では普段は見れないダム堤体内や約50mまで吹き上がる噴水の見学、九頭竜ダムでは639段ある冬期連絡通路の体験や長野発電所側から見上げる高低差128mの圧倒的なダム風景に記念撮影など、多くの方々にご参加頂き、ダムを楽しんで頂きました。

開催概要

- 真名川ダム会場
 - 日 時：令和4年7月28日(木)
 - 来場者数：約80人
- 九頭竜ダム会場
 - 日 時：令和4年7月29日(金)
 - 来場者数：約130人
- 主 催：「森と湖に親しむ旬間」行事運営連絡会





テレビ撮影の様子(FBC放送)

真名川ダム会場の様子



ダムの大さに感動



巨大な噴水に大喜び



ゲート構造に興味津々

九頭竜ダム会場の様子



パネル展の説明を受ける方々



冬期連絡通路(639段)にチャレンジ



ダムを背景に記念撮影

参加者の声

＜真名川ダム会場＞

- キャットウォークは高くて怖かったけど、楽しかった。
- 堤体内は14℃で涼しく、最高でした。来年もまた来ます。

＜九頭竜ダム会場＞

- 冬期連絡通路は、下だけでも足がガクガクになりましたが、楽しかったです。
- 下から見るダムは大きくて迫力がありました。
- ダムの事が良くわかりました。

真名川ダム・九頭竜ダムでは、希望される方々を対象に見学会を開催しています。下記ホームページより、お気軽にお申し込み下さい。

真名川ダム：<https://www.kkr.mlit.go.jp/kuzuryu/sankou/kengaku/managawa/kengaku.htm>
九頭竜ダム：<https://www.kkr.mlit.go.jp/kuzuryu/sankou/kengaku/kuzuryu/kengaku.htm>

【問い合わせ先】



国土交通省 近畿地方整備局
九頭竜川ダム統管理事務所

〒912-0021
福井県大野市中野29-28
管理課 TEL:(0779)66-5300(代)

図 7.5-4 森と湖に親しむ旬間行事の実施報告書



図 7.5-5 森と湖に親しむ旬間行事(真名川ダム見学と管理40周年記念ブース)の様子
(令和元年度)



図 7.5-6 森と湖に親しむ旬間行事(真名川ダム見学)の様子 (R4年度)

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所 HP】

(2) 水環境を学ぶイベント

大野盆地を囲む山々を水源とした九頭竜川水系雲川で、自然とふれあいながら、河川の水環境を学ぶイベント（「自然ふれあい探検隊」等）を大野市と共催で開催した。参加した子供達は川に入って水生生物の捕獲や河川水の水質調査、水難事故防止動画の視聴とライフジャケットを着用しての安全な浮き方や溪流登りなどを体験した。



図 7.5-7 水環境を学ぶイベントの様子

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所 HP】

(3) 真名川ダム管理開始 40 周年記念イベント

真名川ダムの管理開始から 40 周年である令和元年に福井市の商業施設内にて、「真名川ダム管理開始 40 周年記念イベント（パネル展）」を実施した。パネル展では、ダム建設のきっかけとなった奥越豪雨（昭和 40 年 9 月）による旧西谷村（1970 年に大野市に統合）の災害記録や、ダムの建設工事中の写真等を展示した。

2019.9.11~16

真名川ダム管理開始40周年記念イベント

～福井市内にて「パネル展」を開催～

福井市の商業施設「ショッピングシティ・ベル」の1階イベント広場において、今年管理開始40年の節目を迎えた真名川ダムのパネル展を開催しました。
このパネル展は、ダム建設の契機となった奥越豪雨（昭和40年9月）による旧西谷村の災害の記録、ダム建設当時の工事状況の写真や新聞記事を展示しました。
また、大きな被害をもたらす洪水などへの防災・減災の意識向上を目的として洪水時のダムの役割・効果なども紹介しました。
近年頻発している風水害などの関心からか、幅広い年齢層の方がご覧になっていました。

イベント概要	<ul style="list-style-type: none"> ○開催期間：令和元年9月11日(水)～16日(火) 10:00～ 20:00 ○場 所：福井県福井市花堂南2-16-1(ショッピングシティ・ベル 1階イベント広場) ○来場者数：約950名 ○主 催：九頭竜川ダム統合管理事務所
--------	--

【パネル展の様子】



【来場者の声】

- ダム工事の写真が良かったです。(男性 30歳代)
- ダムの役割がよく判った。ダムの構造が素人にも判り易く説明されている。(男性 70歳代)
- 私たちの生活を支えてくれている事に感謝だと思いました。(女性 30歳代)
- またこのような企画お願いします。(男性 70歳代)
- 真名川ダム内の見学会など、もっとPRしたらよいと思います。ぜひ参加してみたい。(女性 50歳代)
- 「わたしたちの真名川ダム」パンフレットは子どもでも見やすいと思います。(女性 30歳代)

【問い合わせ先】



国土交通省 近畿地方整備局
九頭竜川ダム統合管理事務所 管理課
〒912-0021 大野市中野29-28 TEL 0779-66-5300(代)

図 7.5-8 管理開始40周年記念イベントの実施報告書

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

7.6.1 ダム湖利用実態の調査

ダム湖利用実態調査は、「河川水辺の国勢調査：国土交通省水管理・国土保全局河川環境課」により、平成3(1991)年度から3年～5年毎に実施しており、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査(利用者アンケート調査(直接ヒアリング)、利用者カウント調査)を実施し、年間利用者数の推定を行うものである。

令和元年度の結果によれば、年間の利用者数は約3万6千人であった。また、利用形態別状況の年間推計値によると、「野外活動」がほぼ大部分を占めており、ダム上流部にある麻那姫湖青少年旅行村の公園(キャンプ場)施設利用が多く、過去の調査結果からみてもアウトドア的な利用が大半を占めている。平成9年度の調査において、「野外活動」が他年度に比べ突出している理由としては、平成4年に麻那姫湖青少年旅行村の野外活動施設がリニューアルされたことや、当時にアウトドアブームがあったこと、学校の週休二日制が実施されたこと等が考えられる。

なお、平成3年度の調査の来場目的の設問は、「スポーツ」、「釣り」、「ボート」、「散策」および「その他」であったが、平成6年度の調査からは、設問に「野外活動」と「施設利用」を追加している。

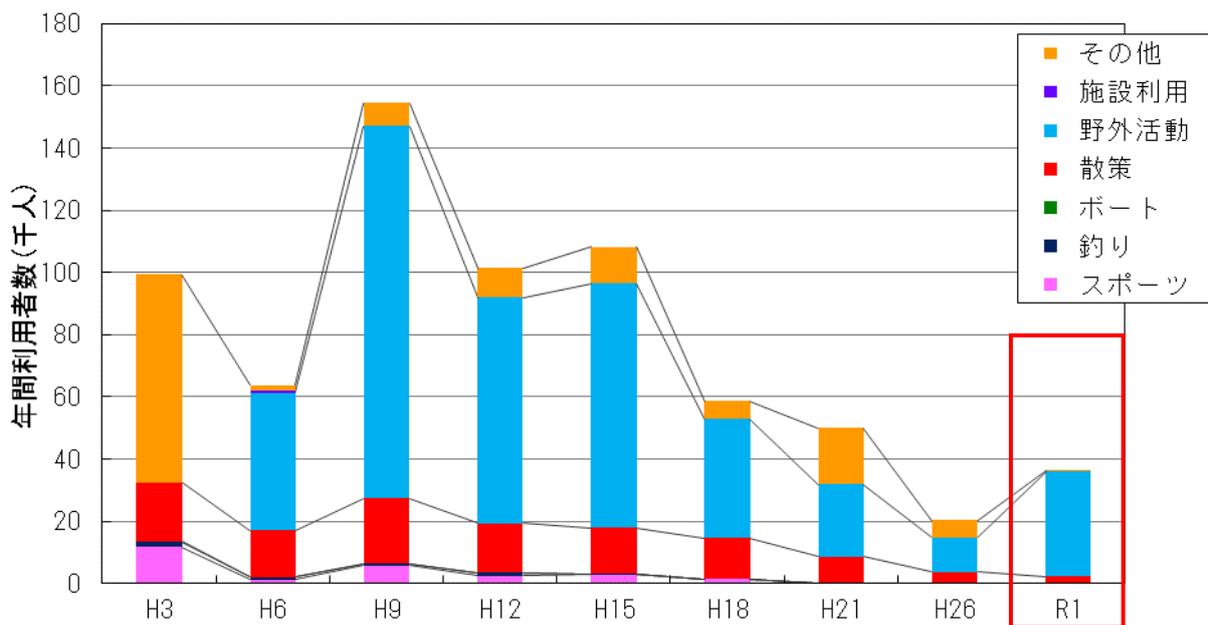


図 7.6-1 真名川ダム湖利用実態調査結果

【出典：河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査編) 平成3年度～令和元年度】

表 7.6-1 真名川ダム湖年間利用状況

(単位：千人)

	平成3年度	平成6年度	平成9年度	平成12年度	平成15年度	平成18年度	平成21年度	平成26年度	令和元年度
ダム	6.7 (6.7%)	1.9 (3.0%)	10.3 (6.6%)	15.9 (15.7%)	14.1 (13.0%)	13.3 (22.5%)	0.4 (0.8%)	6.2 (29.7%)	2.2 (6.1%)
湖面	2.3 (2.3%)	2.7 (4.2%)	8.1 (5.2%)	1.1 (1.1%)	5.5 (5.1%)	0.9 (1.5%)	3.0 (5.8%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)
湖畔	90.4 (90.9%)	59.1 (92.8%)	136.9 (88.2%)	84.5 (83.3%)	88.7 (81.9%)	45.0 (76.0%)	48.4 (93.4%)	14.7 (70.3%)	34.0 (93.9%)
合計	99.4	63.7	155.2	101.5	108.3	59.1	51.7	20.9	36.2

【出典：河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査編) 平成3年度～令和元年度】

7.6.2 真名川ダム利用者の特性

平成 26 年度と令和元年度のダム湖利用実態調査時に行った利用者アンケート調査結果から、真名川ダム利用者の特性を整理した。

■アンケートの回答者数

○平成 26 年度：94 人 ○令和元年度：364 人

(1) 利用者の属性

利用者層は、平成 26 年度は 30 代、令和元年度は 40 代の利用が最も多い。また、令和元年度では 10 歳未満と 10 代が増加し、幅広い年齢層に利用されている。

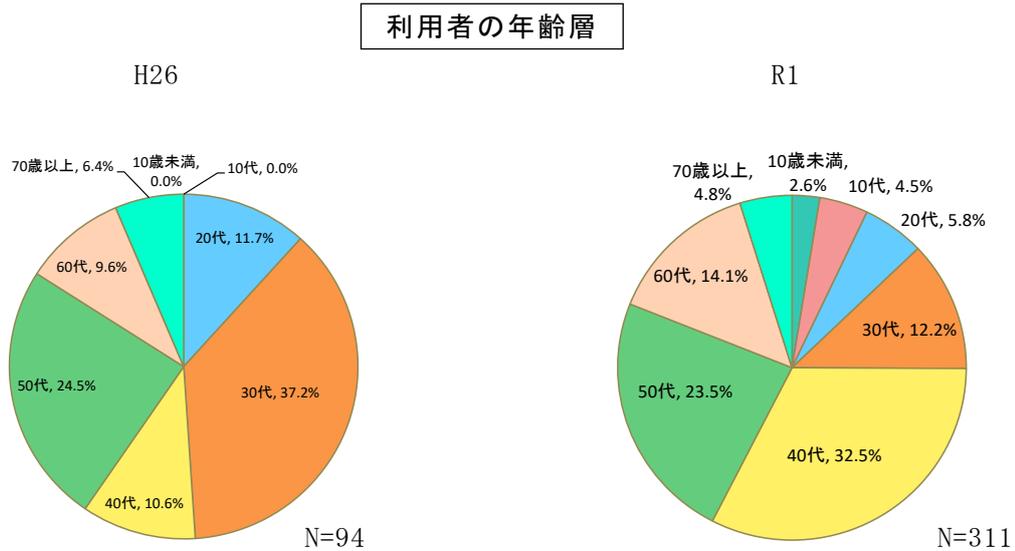


図 7.6.2-1 利用者の年齢層

(2) 利用者の居住地等

来訪者の居住地は、平成 26 年度は福井県、令和元年度は愛知県が最も多く、次いで岐阜県であり、両年度で近隣からの利用者が半分程度を占めている。なお、平成 26 年度に比べ令和元年度では、近隣以外からの来訪者が約 3 割増加している。

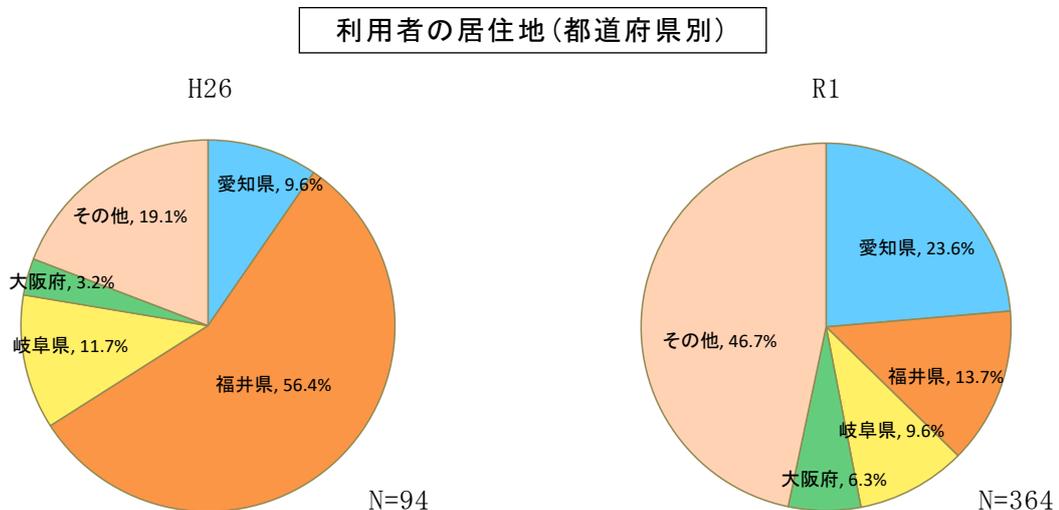


図 7.6.2-2 利用者の居住地(都道府県別)

(3) 来訪経験

真名川ダムを訪れた利用者のうち、平成 26 年度は約 6 割がリピーターであるのに対し、令和元年度は約 6 割の来訪者が初めて訪れている。

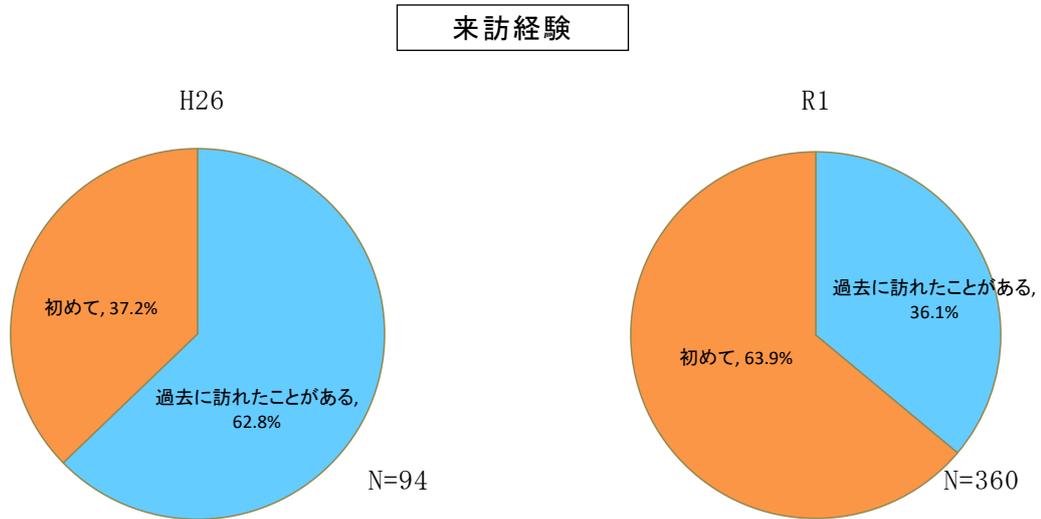


図 7.6.2-3 利用者の来訪経験

(4) 同伴者

同伴者は、両年度で家族が最も多く、次いで単独での利用者である。なお、平成 26 年度に比べ令和元年度では、単独での利用者が 2 割以上増加している。

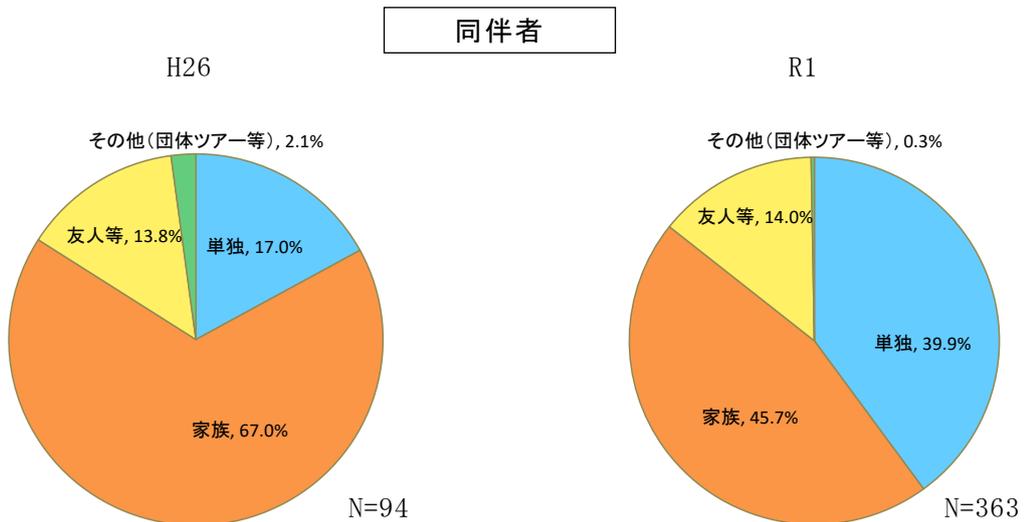


図 7.6.2-4 利用者の同伴者

(5) 来訪目的

真名川ダムを訪れた主な目的は、両年度で施設利用が多くなっている。また来訪目的の内訳については、自然利用では両年度で「散策」が多く、施設利用では平成 26 年度は「キャンプ」、令和元年度は「ダムカード収集」が多い。

九頭竜ダムを訪れた目的(複数回答)

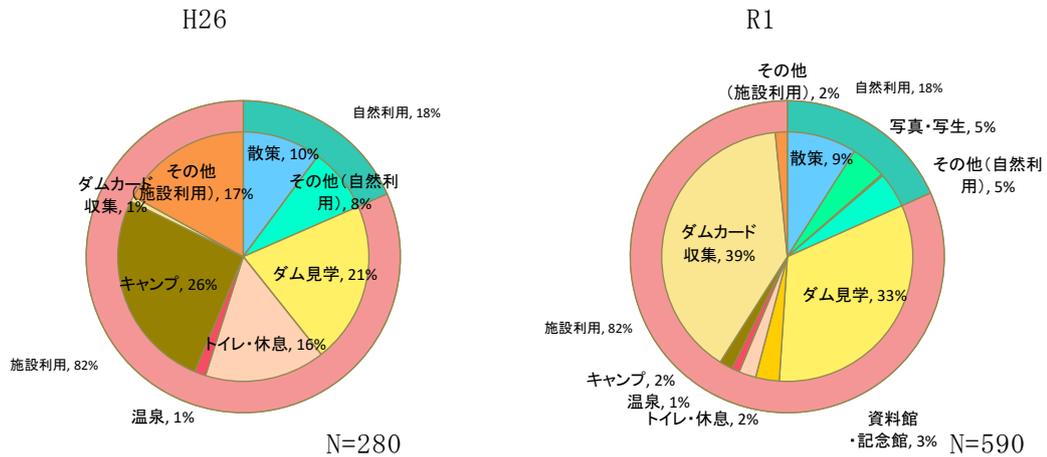


図 7.6.2-5 来訪目的

(6) 滞在時間

滞在時間は、平成 26 年度は 6 時間以上、令和元年度は 1 時間未満が最も多い。平成 26 年度に比べ令和元年度では、6 時間以上の利用者が約 4 割減少しており、立ち寄り利用が多くなっている。

滞在時間

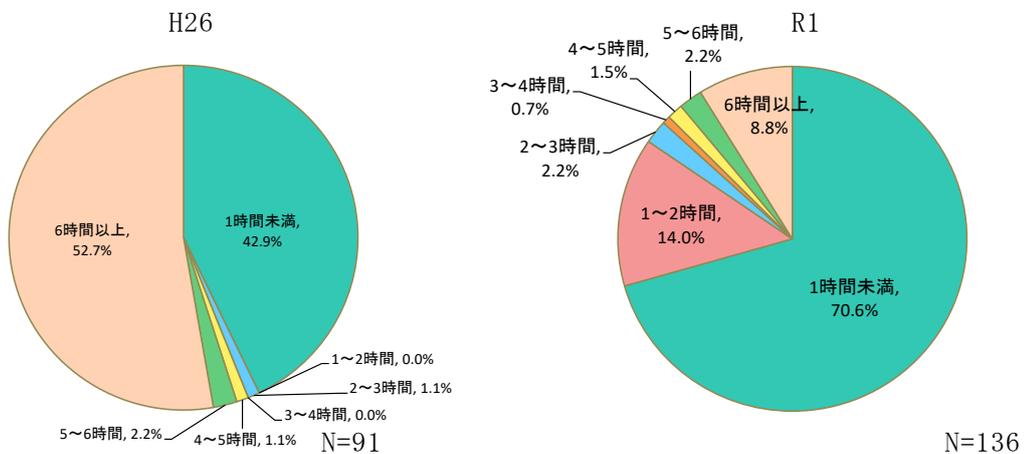


図 7.6.2-6 滞在時間

(7) 宿泊の有無

真名川ダムの利用者のうち、両年度で半分以上が日帰り利用である。一方で、平成26年度と比べ令和元年度では、宿泊を伴う利用者が約2割減少している。

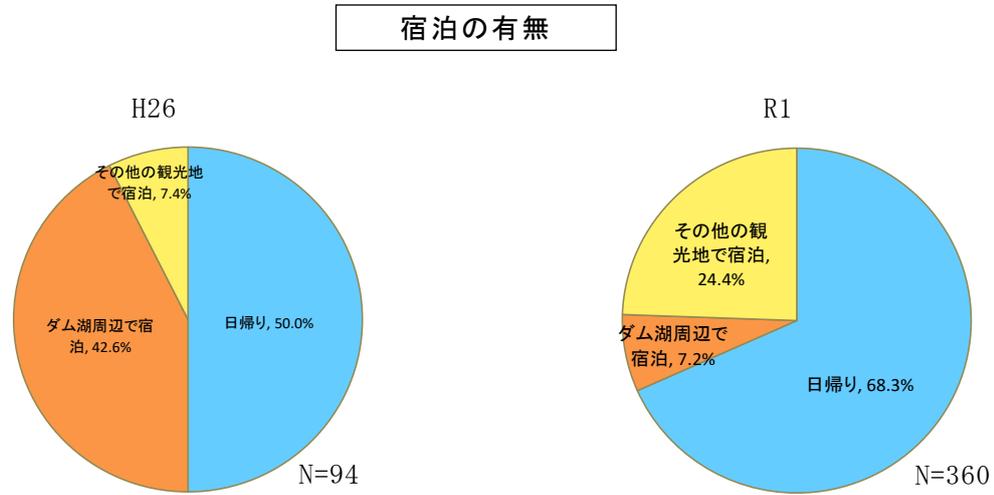


図 7.6.2-7 宿泊の有無

(8) 利用者の感想

真名川ダムを利用した人の感想は、両年度で「満足している」が最も多く、「まあ満足している」を合わせると全体の約9割を占めており、真名川ダムは高い評価を得ている。

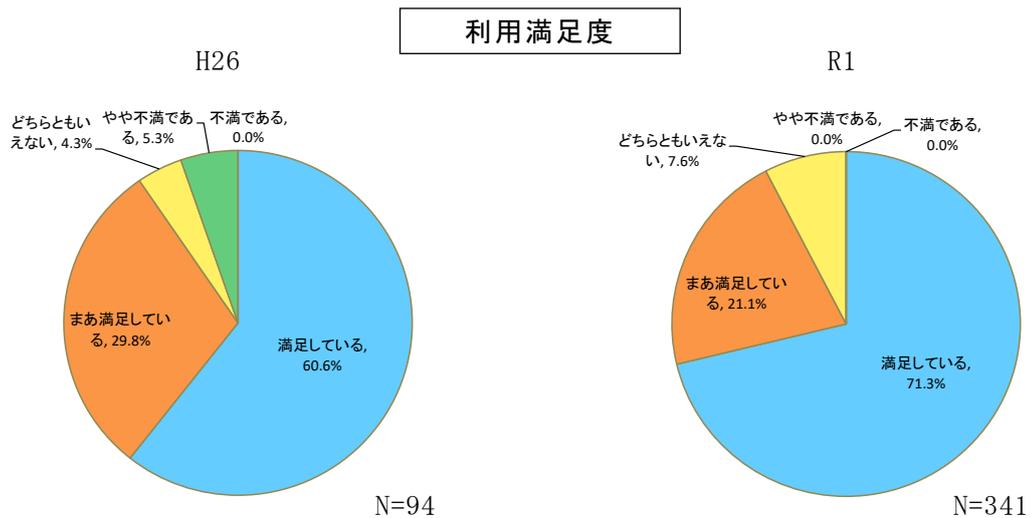


図 7.6.2-8 利用者の感想

7.7 まとめ

まとめ【評価】

- 水源地域ビジョンの「森林」、「水」、「交流」の3つの柱をもとに、水源地域の持続的な活性化に向けた取り組みを実施している。
- 水源地域ビジョン推進委員会内に、「交流」に関する施策を推進する「水源地域交流推進協議会」を設置している。

今後の方針

- 水源地域活性化のため、水源地域ビジョンに照らし合わせて、ビジョンに定められた取り組みを推進する。

7.8 文献リスト

「7. 水源地域動態」で使用した文献等を以下に示す。

表 7.8-1 「7. 水源地域動態」で使用した文献・資料リスト

No.	報告書またはデータ名	発行者	発行年月	箇所
7-1	大野市勢要覧 ver. 2014	大野市	—	ダムの立地条件
7-2	福井河川国道事務所事業概要パンフレット	福井河川国道事務所	令和5年4月	交通アクセス
7-3	(一社)大野市観光協会「えちぜんおおの観光ガイド」	大野市	—	交通アクセス
7-4	国勢調査	総務省統計局	昭和35年～令和3年	人口・世帯数
7-5	経済センサス	総務省・経済産業省	昭和44年～令和3年	事業所数
7-6	福井県統計年鑑	福井県	昭和35年～令和3年	就業者数
7-7	真名川ダム水源地域ビジョン	大野市、九頭竜川ダム統合管理事務所	平成16年3月	水源地域ビジョン
7-8	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン	大野市、九頭竜川ダム統合管理事務所	平成18年2月	水源地域ビジョン
7-9	河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査)	九頭竜川ダム統合管理事務所	平成4年～令和3年	ダム湖利用実態調査